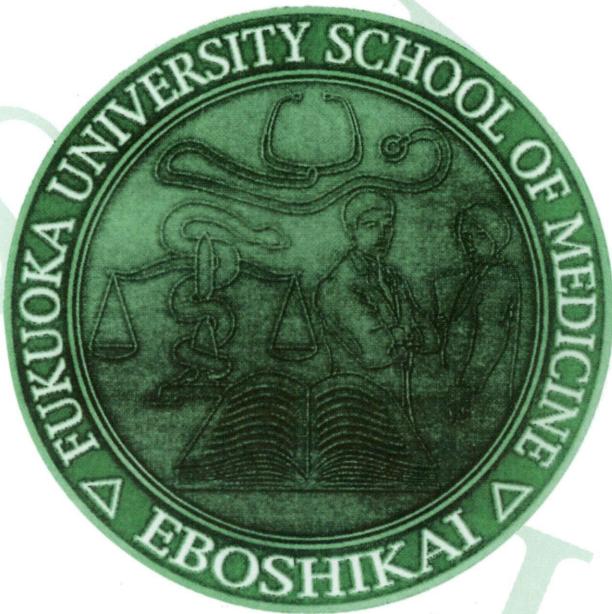


福岡大学医学部同窓会

2001年秋号
烏帽子会会報

31
号



■平成14年度福岡大学医学部同窓会
研究奨励賞募集要項

■平成13年度福岡大学医学部同窓会
研究奨励賞選考結果発表

目 次

・会長挨拶			
「We are patriot!」	高木 忠博	1	
・第20回鳥帽子会総会			
第20回鳥帽子会総会を開催して	柴田 陽三	3	
学生対策、国試対策、研究奨励	松本 直樹	5	
・評議員会議事録		6	
・教授就任挨拶			
「教育計画部発足にあたって」	出石 宗仁	12	
・平成13年度同窓会研究奨励賞選考報告	出 哲 啓二郎	13	
・奨励賞受賞者の言葉			
アンジオテンシンⅡタイプ2型レセプターは リガンド非依存性にアボトーシスを引き起こすか	三浦 伸一郎	14	
肝線維化における アンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤の影響について	岩田 郁	14	
・平成12年度研究奨励費研究報告			
Increased Chymase Activity in Internal Thoracic Artery of Patients with Hypercholesterolemia (高脂血症患者における内胸動脈キマーゼ活性の増加) [論文]	上原 吉就	14	
眼内血管新生抑制作用における接着因子とサブカインのネットワーク の解明(網膜色素上皮細胞の代謝との関係について) [計画]	内田 博子	15	
造影MRIによる転移性脳腫瘍検出能の検討 -Magnetization transfer contrast (MT)pulseを加えた 造影剤通常量投与T1強調像と造影FLAIRの有用性について [論文]	案浦 清高	16	
ヒトでんかんと同じ遺伝子異常を持つモデル動物の作成 [計画]	井上 貴仁	16	
パンコマイシン耐性MRSAにおける パンコマイシンとβラクタム系抗生素の併用の危険性 [論文]	原賀 勇壮	17	
・部長奮闘記			
地域の核となる肝臓病治療を	上村 精一郎	18	
・報 告			
M4激励会	井上 隆則	20	
・教室紹介			
内科学第三 新しい教室と新しい教員と新しい診療、教育、研究をめざし	渡邊 洋	21	
・会員寄稿			
Dr.マジックの医療とMagicによる国際NGO活動報告	伊藤 実喜	22	
関西医大同窓会役員の先生方との懇親会	出 哲 啓二郎	23	
・支部便り			
佐世保支部便り	山川 裕	24	
・キャンパス便り			
第53回 西日本医科学生総合体育大会結果一覧		24	
サッカー部門…好成績 3位	福嶋 浩文	25	
留学生に考えさせられた事	原田 聰志	27	
・計 報			
山口建也さん	井上 隆則	28	
・福岡大学医学部同窓会資料			
平成12年度収入支出決算		29	
平成12年度残金処分		29	
平成12年度特別会計決算		29	
平成12年度財産目録		30	
平成13年度事業計画		30	
平成13年度収入支出予算		31	
教育職員人事		31	
医局長医長名簿		32	
・平成14年度 福岡大学医学部同窓会研究奨励賞募集要項		32	
・編集後記		33	

会長挨拶

『We are patriot!』

鳥帽子会 会長 高木忠博（1回生）



今回は、気取らずに御話したいと思います。（仲間同志で気取ったっちゃ仕方ないでしょもんね！第一、同窓会チャ、気取って、白々しく、ツンと澄ましてよそ行き顔して集まる場じゃ無いと思っていりますもんで！）そこで、テーマを鳥帽子会の第二段階でのビジョンに付いて、胸襟をひらいて、本音の所をザックバランに述べて、今、我々執行部が向かいたいと思っている方向性とそのコンセプトについて、忌憚なく話させて頂こうと思います。その上で同志諸氏の御意見を伺いたいと思います。先ず最初に、現在の我々執行部が行動して行く上での、『同窓会』と言う組織に、基本的に必要と考えている基本的理念を、4つ上げてみようと思います。

それは

- 1, 値踏を絶対にしない**
- 2, 他人に優しく、自分達に厳しく**
- 3, 福大卒の宿命を、毅然と背負う**
- 4, 「経済力」の、真意、を理解する**

以上が、自然なコンセンサスになっている大人の集団に成ろうじゃないですか！と言う事です。上記に付いて、我々の考え方を述べさせて頂いて行こうと思います。

1, 仲間の値踏を絶対にしない

これは、医師と言う職業人として何時も感じていた事で、医師と言う職業人の持つ特性とで

も言いましょうか、長所は圧倒的に多いのですが、欠点として一番感じる事は（一般的にもそうなのかもしれません…）、医者が、数人集まると必ず、人の『値踏』が始まると言う印象を感じたからです。何故、『評価』と言う言葉が有るのに、『値踏』と言う言葉を使うのか？と言えば、色々な会話の中の端々に出てくる言葉の中にその様に表現した方が良いと感じるからです。例えば、何か議論をしていて結論を出す頃に、『アソツは、学生時代は成績が良かった、悪かった』『学生時代は、遊び人だった、そうじゃ無かった』、醜いのになると『○○高校だった』等、同窓会と言う組織には、全く関係の無い話まで出てきます。最後は、『好き、嫌い』と言う低次元レベルの話になり、明らかに『無意識の内に仲間を値踏する行為』をしている事に、全く気が付かずに会話が続いている事が、以外に多い集団の様に思うのです。医師としての訓練中に、鑑別診断、カンペツシンダン・・・と耳にタコが出来る程、『鑑別する』と言う思考回路が、脳に強くプリントイングされてしまい、無意識レベルまで身に付けられてしまい、『状況』と言うモノを判断する時にも拘らず、病人を診る時の鑑別思考回路が、反射的習性によって、パッと『人間』の方に注目が行ってしまい、ツイツイそれが無意識の内に『人の鑑別診断＝値踏』に掏り変わってしまっていると、小生は解釈しています。『状況』と言う、そんな事とは全く関係の無い、時間の流れ、と言う異質のモノであると言う事の姿が良く見え無くなってしまう特性が、医者の世界には何か有る様に思っているのですがどうでしょうか？。小生は、これは、『同窓会』と言う集団の中では、絶対に回してはいけない思考回路と確信しています。『同窓会』と言う所は、そんな思考回路を回す所じゃ決してありません。この雰囲気を完全に払拭する事は、足腰のシッカリした、強い

健全な同窓生の為の、そして、何よりも母校、福大（医学部）の為になる事を目的にしているこの同窓会には、必須のエチケットの様に思えてなりません。如何でしょうか？

2, 他人に優しく、自分達に厳しく

一般的に、『厳しく追及、他人の失敗。笑ってごまかせ、自分の失敗』と言うのが、今の日本で蔓延している常識の様に思われます。絶対に自分の非は認めず心の金庫にしまい込んで、この金庫にチョットでも触ろうモノなら、逆上して反撃開始です。ミスは、どの様な場合でも発生する事は人間の性と思うのですが、平常はさも常識の様に口に出して話しますが、事が一旦起ると、今迄話していた事は何だったの？と言いたくなる様な行動を取る人間をよく見ます。これは、上の事が自分のモノになっていない人間の取る行動の典型的な証拠ではないでしょうか。最近、巷で起こった一流企業倒産の過程で明らかな事は、組織＝共同体の中の人間関係の中で、この『他人に優しく、自分に厳しく』と言う在り来りの事を、厳密に実行していた所は倒産していませんが、逆の失敗の典型は、山一証券、長期信用銀行、などです。もっとも早期にこの精神に基づいて実行していたら多分倒産は避けられたと、多くのアナリストが経済紙にコメントしていました。小生は、『先送り』と言う日本社会の持つ、悪き習慣（弱点）に強力なブレーキを掛ける人間達に要求される、心の必須条件と言うのが、この『他人に優しく、自分に厳しく』と言う、使い古された言葉と思います。人間には、一番難しい心の在り方もあります。初行に述べた言い方が、今風の言い方をすれば、『人間的』なのかもしれません。がしかし、本物のエスタブリッシュと言われている階層に生きている人間には、この『他人に優しく、自分に厳しく』の言葉は絶対に履行出来なければいけない、芸当の一つの様に思います。これが、自分達を救う最良の方法だし、世間が、我々を、我々たらしめている大事な社会ソフトウェアである事に気が付くべきだと思います。それに気が付かなかつた悲劇が、山一、長銀だったのでないでしょうか？。烏帽

子会はそうはなりますまいや！と言う事です。チョット堅とうなりまして申し訳ありません！

3, 福大卒の宿命を、毅然と背負う

『今頃、小学生じゃあるまいし、ナシテこげな事ば、お前言いヨーとや？』と言われる覚悟で話します。良く『誇り＝プライドを持て！』と巷で言わますが、俗にいうバカなヤツと言われる人間が、正直に、こんな質問を返したとします。『ジャー！どげんしたら、プライド？とやらを、持てるとですナ？』、序でに『誇りチャ、何ですか？』と聞かれたら、皆さん、どう答えますか？ナカナカ哲学的質問です。色々有ると思いますが、先ず『誇り』てなもんは、内面的な事なのか、外面向的な事なのかに悩みます。小生、生来『内気』なもんで？一応『内』なるモノとして考えてみました。第一これは人に見せるモノではありませんし、かなり人間の精神の根のところでシッカリした支柱になっている様なものです。ラーメン屋の誇り、画家の誇り、証券マンの誇り、学者の誇り…etc、色々ですが、要するに自分が生まれてしまって、背負ってしまったどう仕様もない事＝宿命（宿ってしまった、どう仕様もない命の意）を、内に『毅然』と言う意識で、覚悟したとき発生する感情が、『誇りを持つ』ツー事じゃないかと言いたい訳です。自信を持って、誇りを持って生きるとはこんな事と解釈しています。そうなれば、他が気にならなくなつて楽になると思います。

4, 『経済力』の、真意、を理解する

1670億6500万円、この数字は、慶應大学の収入決算で、その中で寄付は71億円となっていました。この経済的資金力を見て、大多数の人は、殆ど同音に、『それは慶應やけんさ！ 福大と比べてたっチャー？』の解答しか出て来ません。それ以上は、思考制止（フリーズ！）に陥ります。『違う事ナンザ！ 最初から分かり切ったコッテス！』反論したくなります。『何故？』『どの様なシステム、どの様な思考で同窓会を動かすとこの様な事ができるのかなー？』と言

う方向に思考が進まないのが、不思議でなりません。私学で成功している大学の同窓会のノウハウを分析して我々の糧にしようと言うグチの話なのにです。小生は大変興味があります。『経済力』無くして、何も『実現』しないと言う事が証明されたに過ぎない。と、どうして解釈出来ないのか分からなくなる時があります。『現実』と『理念』は、表裏一体で同時進行で動かして行くのが、『成熟した思考』と言うモノではないでしょうか？。そして、これが一番大切なセンス（感性）と思います。これは『自分達でするしか無い！他人は、絶対に、何もしてはくれない！』と言う個々の強烈な自覚から全ては始まる。という意識の問題と思うのです。同志諸氏の『浄財』が、現実をシッカリ支えている事を、もっと身近に感じて頂き

たいと言うのがこのスローガンの趣旨です。

長々とみなさんに、訴えて来まして多分、『アーボロ臭エー！』と思われている仲間も居る事も承知の上の話です。小生は、『福大は、福大生が作る』と言うこの一言に拘って、もっともっと深く思慮を巡らし同窓会を作る事に参加させて頂こうと思っています。先の言葉は、もしかしたらナショナリスト（nationalist=愛国者）の言葉の様に解釈されるかもしれません、この英語には、排他的意味を含みます。しかし、小生の言う意味を含む英語表現は、パトリオット（patriot = 愛国者）としての意味とご理解下さい。（wisdomとcleverの差異の様に）We are patriot!で行きましょう。終わります。

第20回烏帽子会総会を開催して

第20回烏帽子会総会委員長

柴 田 陽 三（4回生）



同窓生の皆様におかれましては第20回烏帽子会総会の開催に際し、多大なご支援を頂きましてありがとうございました。紙面をお借りしまして厚く御礼申し上げます。同窓会本部並びに4回生・1

4回生の当番学年の協力により、成功裏に開催する事が出来ました。これまで、4回生は1～3回生と異なり福岡大学医学の卒業生であるというidentityが低下してきている学年であると考えておりました。ところが、うれしい誤算でした。同窓会総会の準備委員会の発足式には、卒業後20年ぶりに顔を会わせる同級生もいました。薄くなった頭、突き出てきたお腹を笑いながら、旧交を温め、そして総会開催にむけてのmotivationを挙げていきました。今年の初めから毎月一回の委員会を行ったのですが、福岡市内は言うに及ばず、遠く私以上に遠来の同級生が熱心に協力してくれました。平日の夜

にも関わらず、下関、唐津、日田、久留米の善導寺から同級生が駆けつけてくれました。わたしの懸念が杞憂であります事をうれしく思っております今日この頃です。最初は控えめでありました14回生の諸君も同窓生の絆に触れ、感じるところがあった様でした。熱っぽく準備委員会で語り合う私たちを見て、ある14回生が、こう言いました。「私は、卒業して10年間、つらいことが多く、何も良いことが無かつたように思います。夢を感じることが無かつたように思います。でも、人生捨てたものではないですね。同窓会って、同窓生って良いものですね。」と言ってくれました。こういう事を感じてくれた人がいただけでも、総会の世話を人をさせて頂いて良かったと思っております。彼らには10年後に再度、開催当番が回ってまいりますので、私ども4回生はそのときにこそ一杯、応援してやりたいと考えております。

今回の総会の特別講演はNHK福岡のチーフアナウンサーである山下信氏にお願いいたしました。お願いする経緯に至りましては、医学部同窓会事務の池田さんが、地元の方ではないの

● 第20回烏帽子会総会 ●

ですが、福岡最員の感じの良いアナウンサーがおられますよとの推薦して下さった事によります。直接の面識がなかったものですから、図々しくも直接NHK福岡の放送局に電話をかけました所、快く面会して頂き、講演の受諾をして頂けました。現在、毎日「おっしゃい福岡」という郷土番組を担当されている事、以前関東地区のNHKに在籍していた折りに健康相談番組を担当されてあった事から、色々と興味ある話をして頂きました。予定の1時間の講演時間があつという間に過ぎ去り、「話をする技術」というものに感銘を受けました。また、山下信氏の報道に対する信念と言うものは、私たち医療に携わる者にも通ずる面があると感じ入りました。有吉朝美病院長からも、職業は異なっても「こころ」は一緒であるとのご感想を頂いております。

懇親会の席では開会の辞を一番遠方から参加してくれた吉兼正文先生（愛知県）にお願いしました。余興として三回生の伊藤実喜先生にマジックショーをお願いいたしました。内科医と

してご開業なさっておられますのに、いったい何時、練習なさってあるのだろうかと不思議に思いましたが、見事なショーを演じられました。

今回の総会参加者の概略を報告させて頂きます。参加人数は128名で、内訳は特別会員4名、1回生14名、2回生7名、3回生7名、4回生33名、5回生9名、6回生5名、7回生6名、8回生3名、9回生2名、11回生4名、12回生1名、14回生20名、15回生5名、16回生1名、20回生1名、23回生1名、学生4名でした。

懇親会の最後には来年の総会開催委員長の第一外科の田中伸之介先生にご挨拶をお願いいたしました。田中先生大変でしょうが、頑張って下さい。

最後になりましたが、第20回烏帽子会総会の開催におきましてご協力、ご支援賜りました同窓生の皆様方に厚く御礼申し上げますと共に、皆様方の益々のご健勝とご発展をお祈り申し上げます。



平成14年度福岡大学医学部同窓会烏帽子会総会予告

平成14年7月上旬（日時未定）に行います。場所は未定。当番は5回生と15回生です。実行委員長は5回生の田中伸之介氏（福岡大学病院外科第一）が担当します。

平成13年度事業計画の3本柱 学生対策、国試対策、研究奨励

理事（松本病院院長） 松 本 直 樹（3回生）



灯火親しむ候となりました。同窓の皆様には、お元気でご活躍のことと拝察いたします。

まずは、ここ数年来の懸案であった同窓会費の年会費制導入と財政の再建が、我々執行部の予想以上の成功を収めつつある事を御報告致します。

これは何よりも皆様方の暖かい御厚情の賜物であり、心より感謝申し上げるとともに、多大な御尽力をいたしている各支部長にも厚く御礼申し上げます。さらに年会費制度を維持することは同窓会の生命線と位置付け、我々執行部は不退転の決意でこれを守っていく所存です。したがって未納会員の皆様には、未納累積されていく事のない様、ご配慮のほど、くれぐれもお願ひいたします。

さて、平成12年度の予算規模は例年の約2倍、3千万円弱となり「より誇り高き母校、福大医学部をめざして」事業計画を練り、その実行に着手しております。まず、第一に学生対策、国家試験対策です。平成11年度の国試不成績や合格者の母校入局率の低下（47%）は目を覆うばかりの状況であり、その悔しさを最も骨身に感じているのは我々同窓生なのかもしれません。それは我々のプライドの問題のみならず、今の状況が統合後も厚生労働省がもくろむ医学部整理廃合の対象校となる恐れすら生じる可能性があるからです。学生の教育に関しては学内の同窓、特に朔教授、林教授を中心に献身的な努力がなされていますが、上級生に関しては時すでに遅きに失するため、平成12年度新6年生進級時に大量の留年生を生み、医学部当局者のみならず教務員の一人である朔教授もその矢面に立たれる結果となりました。そこで内外の同窓生が力を合わせ学生達に理解を求め、奮起を促し、一方で彼らの悩みや本音を率直に話してもらう機会を持ち、必要な対策を考え、実行し、彼らの最大の援護集団としての同窓会を知らしめる必要があったのです。手始め

に去年の秋、大多数の6年生を招集し、数十人の同窓生（執行部、学内教官、福岡支部会員）が囲み、盛大な国試激励会を開催しました。学生諸君もおおいに感激してくれた様子で、今年の国試合格率は80%強、母校入局率も70%強となり、我々の活動も僭越ながらお役に立てたのではないかと自己満足し、今後益々学生対策に力を入れてゆく考えです。

また、卒後教育に関しては研究助成金制度を平成11年80万円（年）でスタートし、現在150万円（年）（某近隣私大の約1/10）程度となり今後も増額してゆく方針です。平成12年度受賞の形成外科（3回生大慈弥助教授門下）の原賀勇壮君は受賞論文が名譽ある New England Journal of Medicine に掲載されました。彼は同窓会総会場で再表彰され、その時、スピーチの中で「何度もくじけそうになり、何度ももうやめたいと思ったが、同窓会の皆さんに援助していただいたこの研究を途中で投げ出す訳にはいかなかった。」と声を詰まらせ語ったとき、聴衆のなかで涙腺がゆるみ苦労したのは私ばかりではなかったと思います。

福大医学部同窓生の特徴は何か。良くも悪くも強者ではない、自信家でもない、競争もあまり好まないものが多いように感じます。しかし、恵まれて育ってきたがゆえに、性格にゆとりがあり、他者に対して寛容であり、人を思いやる気持ちを常に持ち得るのではないでしょうか。これは、良き臨床医の素質として胸を張れるものと信じています。学生対策も卒後教育支援も決して単なるあまやかしではなく、先輩後輩の結びつきをより強固にし、互いに仲良く助け合っていく事こそが、私学、福大らしさであり、何よりも同窓会組織を磐石にしていくはずであると考える次第です。

追伸：来年度より福大医学部の入学試験（学力試験400点）に、面接点40点が追加されるようです。医師の適性、大学入試のありかたが問われる現在、我々の母校にふさわしい人物の選択肢が増えるという意味で、大変興味を持って注目しているところです。

平成12年度評議員会議事録

◆日 時 平成13年5月26日 16時
◆場 所 福岡国際ホール
◆主席者
評議員 実出席：39名 委任出席：10名
出欠席：17名
支部長 出席：11名（うち8名は評議員兼務、長崎支部は代理） 欠席：6名

◆会長挨拶（経過報告）

この1年を振り返ってありがとうございましたと感謝申し上げる。年会費制を実施したことにより同窓会の経済的基盤が安定し、アクティビティがあがり、いろいろな成果を生み出す事が出来るようになり、私達も働きがいを感じることができた。そういう状況の中で、今後の同窓会活動の向かうべきベクトルとしては、きちんとした支部の確立こそが重要であると思う。是非皆さんのご協力を頂きたい。併せて同窓会生の中から教授を作っていく事も大事な仕事であると思っている。

◆議事

1) 平成12年度収入支出決算見込み
【池田事務局長説明】 異議なく承認された。

2) 平成13年度事業計画（案）

【松本理事説明】 各支部の会費の高い納入率により、かなりの経費を今年度来年度の事業に盛り込む事が出来、財務担当理事としてお礼申し上げる。毎年行っている会報の発行、会員名簿の発行（今年発行）、総会の開催については省略し、3本柱として重要な、研究奨励賞、学生対策、国試対策について説明する。

・研究奨励賞・・・形成外科の大慈弥先生の部下が、研究奨励賞をもとにして世界的にすばらしい雑誌に名を掲げるという成果がもう既にでている。最近、立派な内容のものが増えたので賞金も増額した。ちなみに近くの某私立大では10倍の金額である。

・学生対策・・・昨年の国試験の芳しくない

結果を受けて何か出来る事はないかと考えた。まず学部長、副学長にいろいろ聞き、口論し喧嘩もした。一方朔先生や林先生からは、今更技術論教育論を言っても仕方ない。みんなを集めて同窓会の先輩から励ましてほしい。ハートで訴えて欲しい。それが一番効果があると言われた。そこで100人近い6年生を福新樓に呼び、車座になり、中華料理を食べながら大いに話しをした。卒業生側も理事や福岡市内の多くの同窓会員が集まってくれ、一人一人スピーチをしてくれていろいろな意見を言ってもらった。その結果かどうかは別として、今年の国試は成績が良かった。こういう活動も意義があったと思っている。又6年生も喜んでいたという話を聞き、今後は6年生の早い時期に行うとか、キーポイントの学年であるM4にも気合いを入れようとか、新入生が入ってすぐ福大生としてのプライドを植え付け、そして大いに励まそうという試みでかなり高額な金額になっている。しかしここまでやらないと意味がないという大胆な発想でやってきたし、成果は上がると考えている。

・国家試験対策・・・これは学生対策と対になっている。学部長との懇談の中でも、卒業生の助教授講師はざらにいるが、卒業生の副担任は少ないので今後はどんどん卒業生を利用して下さい、そうすれば我々は血が繋がっているから彼らはすばらしい教育をすると思いますと話した。するとアット言う間に卒業生の副担任が増えた。それなら一度副担任を呼んで我々の意向を伝えようということになり、皆さんに集まって貰って、無理な仕事を押しつけているわけではない、みなさんの為にもなるし、これからは教育が非常に大事になってくるのでそう言う事も含めて理解して欲しいと、酒を飲みながら話した。こういう理由から国試対策の費用がかかっている。又国試の前夜、朔先生の配慮で先生の部下10人近くがホテルにこもり、いろいろな問題を処理し学生たちに提供するなど、本来なら大学側がしなければいけない事ではある

が、とりあえず我々でやっていこうという事でやってきた。この3本柱に強く力を入れて事業を拡大していきたい。

【筑後支部：朝倉】 M4激励会とはどういう事をされるのか具体的な説明を聞きたい。

【松本理事】 教授陣のご意見では、4年生の時期が国家試験の成否を左右するターニングポイントになると言うことだ。そこで一発気合いを入れる。我々同窓会には精神論しかないので、とにかく集めて気合いを入れる、あるいは優しい言葉をかける。君たちを中心としている人間がいる事を伝える。学生はこういう先輩と自分の関係を知らない。こういう会に取り組んで欲しいと学内の先生方からの希望があり、新入生歓迎会や国試激励会と同じ形で行いたいと思っている。言い忘れたが、今年の国試の合格率は良かったが昨年は悪く、その上、福岡大学に入局した者が全体の37~38%であった。これには医局が悲鳴を上げた。これでは福大は存続できない。ことあるごとに九大と久留米に随分吸い取られた。これは同窓会の上下の関係が少なすぎるからではないかということで、今年は運動をして大学に残らないとだめだと働きかけた結果8割近くが残った。この成果は教授会では各医局長が頑張った結果だとなっているようだが、我々は同窓会が頑張ったとからだと思っている。

【朔理事】 学生と一緒に酒を飲んでくれと前からお願いしていた。大学主催や学生主催のパーティーはあるが、今回は特に畠の上でやって欲しいと頼んだ。卒業生が大学に残った数は、昨年の45人に対し今年が85人である。もともと残る数は少なく特に昨年が少なかった。九大、久留米に行くのが非常に多かった。こういった運動が確実に成果をあげている事を私は肌で感じる。もっとやって頂きたいと思っている。

【重田副会長】 我々理事会も事業がなかなか進まずマンネリ化していた。こういう事をやらねばならないといけないと思うようになったのは、朔先生が教授になられて学内の状況がわかり、学生の姿が見えてきたからだ。まず同窓会と学生との接触が少なすぎた。医局への歩留まりが悪かったのもそのせいだと思う。国家試験で一番大事なのはモチベーションだ。誇りとか

自信とかこういうことが言えるのはやはり同窓生や先輩だ。朔先生、林先生がおっしゃるにはとにかく同窓会は学生に言ってくれ、これが一番いいんだ、ということだ。同窓会としては方針的一大変革と言うことになるが承知してほしい。

【高木会長】 最初に言った支部の確立、資金の確立、学生への関与の確立、この3つが同窓会できちんとできるようになれば絶対良くなると思い、最後の総仕上げとして初めて今年から学生に関わった。そういう足腰がやっとできた。学生は今までこういうことに飢えていたのではないかと私は思った。5年生に土倉潤一郎という学生がいるが、皆さんに配った鳥帽子会の会報に彼の文章が掲載されている。彼から貰った手紙によると、今のカリキュラムでは5、6年生になるとBSLの為にスマートグループに分けられる。同級生100人がみんなで頑張ろうという雰囲気ができにくい状況となっている。それで個人個人、スタンドプレーーできたというのが現状である。その時に朔先生がとにかく絶対に座敷、そして必ず膝と膝が交わるところで飲み会をやってくれ、そういう風にして話したら必ず効果が出るという強い要望があった。幸い12回生の張敬範先生（整形外科）のご実家が「福新楼」なのでお兄さまや店の方にお願いしてやってみた。とにかく今度の国家試験は生まれて初めて、我々の情報が一切通じない試験だったので不安で怖かった。大学側からはがんばれ、あぶないぞだけでしかない。そこで朔先生が「とにかく落ち着け、お前たちの後ろには同窓生2000人がついとるけん心配するな」だけを、そして他の先生方もいい話を学生達にパンパンしてくれた。これからも毎年行うので遠くの先生方も是非参加して頂きたいと思う。学生への事業をメインに頑張っていくので宜しくお願いする

【松本理事】 私の心の中にもちょっとあるのだが、それは甘やかし過ぎてゐるのではないかという懸念である。我々の時はなかつた、そんなにして甘やかしていいのかという見方もあるのだが僕がそれに答えるとしたら、今極めて厳しい立場にある朔先生は、今まで割と甘かった留年制度では国家試験に太刀打ち出来ないと言う判断で、留年を増やすという厳しい判断をされ

た。そう言う厳しい環境に置かれていて、しかもカリキュラムが替わるまでのここ2、3年が国家試験に弱い時期である。そう言う時に我々同窓会が留年生も含めてしっかりサポートしなければならない。さらに留年をさせるこの教育自体についても我々は評価を怠ってはならない。その為には学生の生の意見を聞かないといけない。大勢の学生からどんな意見が出たかを先輩達に聞いてもらっている。そして実際いい話や、困っている話、僕らが学生の頃には誰も救ってくれなかつた話、そういうことのちょっとした改善があると学生は伸びていく。学生の意見を聞きながら、厳しい環境下でも頑張れよと励ますそういう部分をやっていく。

【重田副会長】一番同窓会の事業らしい事業、いわゆる研究奨励賞に今後は予算規模を拡げて行きたい。久留米大学は1000万円で1桁違うので、同窓会が大きくなればこのてのお金は増やすべきだと思っている。

以上の討議の後、事業計画（案）は承認された。

3) 平成13年度収入支出予算（案）

【池田事務局長説明】特に異議無く承認された。

4) 福岡大学医学部同窓会会則の改正

5) 福岡大学医学部同窓会細則の改正

【田野理事説明】第4、第5議題について一括説明。この提案のうち

①名誉会員の新設に関する事…異議無く承認。

②懲罰に関する規定新設について…下記の討論の後、この議題は次年度に持ち越しとなった。

【重田副会長補足説明】①名誉会員については今まで規定が無かったので新設したい。対象は限定していないが主に副学長、学部長その他で、同窓会にご協力戴いた方を考えている。②懲罰については、なぜ今頃と思われる方もあると思うが、社会的に新聞を賑わす方があり、具体的には支部から報告があつても規定がないと話が出来ない。一応規定を作つておいた方が良いと考えた。具体的に内容は差し控えたいが、

我々もいい年代になってくるので、社会的に我々の名譽を著しく損なう方には除名を含めた規定は必要であろうということで提案する。

【馬郡嘉飯山支部長】具体的条件を決めた方がよいのではないか。

【重田】具体的なことは皆様の意見を聞きながら決めていきたい。

【高木】どうしたらこうすると言うのではなく、自分に厳しく他人に優しくという福岡大学医学部同窓会の会員の心が、1つのコンセプトとしてこの言葉の中に込められている。どういう事が良くてどういう事が悪いのかは、我々のコモンセンスのレベルを信じたい。要は我々の名譽、プライドがどういう風に自分達を律していくかと言う事であり、自分達に厳しい集団でありたい。具体的に決めるときりがないので、我々のようなインテリゲンチャー集団のコモンセンスの価値観で判断したい。社会的良識に悖る事には厳しい負荷をかけて襟を正す。そういう同窓会を作りたい。

【三村長崎支部長代理】同窓会には除名とか言う懲罰は必要ない。除名を認めるならば退会も認めるべきだ。こういう規定を盛り込む事には絶対反対。

【重田】いきなり本質論にいったが、「同窓会とは一体なんぞや」と言うことについてはいつも悩んでいる問題である。任意の親睦団体であり、入りたい人は入り嫌な人はやめてもいい、罰はない。これが世間一般の同窓会である。しかし我々は医者として社会的地位もあり、そのプライドをもつて生きてもいる。それが集団を形成し、社会や大学等に関わりを持てば自然社会的な責任も伴つてくる。それはもはや単なる親睦団体ではない。

【高木】反社会的な行為をした人が、自主的に退会される人ばかりであれば規則は要らない。しかし世間はそうばかりではない。よその真似をする必要はないが、医師会や医学同窓会が懲罰規定を作っている意味は、医師として社会的信用を大事にする集団であるから、社会的なものに対し自分達の襟を正し、あえて自分達に厳しい綱を定めているのである。わが同窓会にもそれが必要なのではないかと解釈している。もし社会的な問題が発生した時どう対処するか、そのすべてを失うのではないかと危惧している。

【三村】 刑事事件を起こして新聞等に載るとしても、福大出身であることは、同窓会を除名したからと言って変わるわけではない。その事実は消えないし、同窓会員でなくなったから関係ないとは社会に対して言えない訳だから、懲罰規定を設けることは無意味ではないか。

【高木】 福大卒という事実は我々の宿命である。社会に対して同窓会を除名したからこの人はもう関係ないというためにこの規定を作っている訳ではない。この規則は社会に向かっている訳ではなく、内なる我々の気持ちの中にそういう厳しさを持とうではないかという提案である。それが何になるんだと言う人はそれでも良いし、除名されても構わないと言う人も多分いるであろう。しかし自分が背負った宿命をプライドを持って生きていこうと思う人は心に重く受け止めるであろう。その違いではないか。

【馬郡】 医師会には懲罰委員会というものがありそれに掛けようと言う話もあったが、法律的に刑事事件を起こしているわけではない、民事であり見送っている。こういう項目はしたからではなく、しないためにという事で盛り込んでおく事ではないか。

【中川関西支部長】 同窓生が2000人にもなると、同窓会を利用して自分の利益を計ろうとする人もいるであろう。都合が良ければ同窓生だが、都合が悪ければ知らないという人もいるわけで、そう言う話が理事の耳に届き、どうしたものかという事がこの懲罰規定の背景にあるのではないか。自由に退会できるかということにおいては、会費を払ってなくても同窓会員であるため退会はしたくても出来ないことになっている。そこで同窓会の姿勢として懲罰規定は必要だと思う。その前に明らかに同窓会を利用して利益を計ろうとしている人に対して、同窓会として今後どう対応するかも含めて議論すべきだと思う。

【横手広島支部長】 広島支部を作る時、入会しない、呼んでくれるなどといわれる方がいた。会費は払われないし、支部会をやるたびに案内を出しきいろいろ勧誘しても返事は来ない。こういう罰則を作ると拡大解釈される恐れもある。我々は品位を持ってやっているのだから、こういうのがなくとも自主的に退会してもらうことを考えればいいのではないか。文書として入れ

る事には賛成できない。「退会を勧告できる」というニュアンスに出来ないものか、又事件を起こした人にもそれなりの事情があるかも知れないし、それを聞いて守ってやるのが同窓会かも知れないと思う。できればやってほしくない。

【松本】 基本的には同窓会は同窓会員を見守って守っていくところであり、福大のいい部分を聞かせて貰った気がする。非常に優しく、人を思い、あたたかい同窓会であるべきである。これは全く同感である。退会を押し進める為にこの項目を入れたわけではないし、これをgori押しするつもりもない。がこういう規定が全くない状態でいいのかという疑問が出た。懲罰項目がある大学、無い大学がある。時代の流れで福岡県医師会はとても厳しい。何か問題が起こると直ぐにその地区の医師会に懲罰動議を起させれる。北九州の支部総会の時、関屋先生をお呼びしたが厳しい口調で襟元をただして欲しいとスピーチされた。会費とか将来的な退会勧告とかではなく、広い意味で同窓会員と友好を持っているこだうと思っている。こういう事をしたら除名するとか、何人以上をもって議決するとかは一切明記していない。最低限の枠をひいておく必要があるのではないかと考えている。

【中川】 議論のポイントがズレていると思う。除名=会費を払わないことは違う。確かに関西支部にも名簿に名前を載せて欲しくないと言う人もいる。しかし卒業生の名簿であるから掲載されている。しかしそれと除名とは別の問題である。会長や理事が何か問題を起こした時も、懲罰規定がない限り除名出来ない。理事会が勝手に除名出来るわけではないし、我々が理事に対して除名反対の意見を言える。

【馬渡評議員】 これは危機管理の問題ではないかと思う。問題が起こって同窓会としてどうするのかと問われた時、「何日付けで除名したので一切関係ない」とスピーディーに対応する為必要なのではないか。強い組織になるためにはやらないといけないと思う。

【重田】 同窓生と同窓会活動とは違う。同窓会組織の中での論理が存在し、活動を円滑にする規則が必要である。

【三村】 具体的事例を知らないので誰を対象にしようとしているのか解らない

【高木】誰かをねらい撃ちにするためにこの規定を作っているのだと思わないで欲しい。今2500人位会員が居て将来4500人を維持する事になるであろう。その時の危機管理であって、誰かをねらい撃ちをするために作るのではない事を理解して欲しい。

【重田】除名については結論を来年へ持ち越すこととし、支部でもご検討下さい。名誉会員についてはご承認戴いたことにします。

6) 福岡大学医学部同窓会研究奨励賞規程の改正

【朔理事説明】異議なく承認された。

- ・第6条について・・件数の3件以内を5件以内とし、予算の範囲内において1件あたりの金額の制限を外す。
- ・第9条について・・内容が8条と重複するので削除する。

7) 福岡大学医学部同窓会研究奨励賞選考委員会規則

【朔理事説明】異議なく承認。

- ・第2条、委員及び委員長の選出方法の改正について提案

8) 医学教育研究基金の設立と生涯教育基金の廃止

【朔理事説明】異議なく承認。

現在生涯教育基金として230万円ある。別に教育研究基金として寄付戴いた金が72万円ある。これを統合して同窓会の活動である学生対策、研究基金、留学時の援助金などに使用したい。久留米大学や慶應大学等は研究基金の額がかなり多く、その基金は篤志家や篤志会員の寄付によるものが多い。我々もこの基金を医学教育研究基金と改称し、各方面からの寄付の受け皿としたい。なお今後、寄付をしやすくするための税制面の研究をしていきたい。

9) 会費の納入について

【松本理事説明】

- ・支部別納入状況・・12年度分の締切りは終わっているが、11年度の会費未納の方が12年度分として支払われても、それは11年度分に充当される。きちんと完納する事を条件とし

ているのでご理解頂きたい。納入率は比較的高い。

・卒業回別納入状況・・本部徴収率の方が、支部徴収率よりやや上まっていることが解る。これは支部によって徴収率に大きな差があるからである。

◇支部における会費徴収状況

【福岡支部：権藤支部長】区によって温度差があるが改善の方向に向かっている。12年度分のつもりが11年度分へ回っているので、12年度の納入率は落ちているが会費を払う意志は充分にあるので、事務の方で連絡を徹底すれば8割はいくと思う。しかし同窓会に呼ばないでくれ、会費は払わないと言う人はいる。そのため100%は無理だがそれに近い数字はいく。

【北九州支部：津田評議員】昨年からクレジットカードを導入して徴収率は上がっている。12年度のつもりが11年度へ回った分があるので%は低いが、昨年作っていない人も今年作ってもらったから実質の徴収率は上がっていると思う。今度6月に支部総会があるのでそれに合わせて努力したい。

【嘉飯山支部：馬郡支部長】年会費3千円×12ヶ月分=36,000円を強制的に銀行に振り込んで貰って、そこから自動引き落としをしているので100%の完納率である。嘉飯山は実質会員36名、12回生までは22名、A会員12名、B会員10名である。A会員は会費を払っている人達で3ヶ月に1回集まり講演会を開いたりしている。会費も十分あり使途に悩むほどなので完納出来ていると思う。

【筑後支部：浅倉評議員】残念ながら100%ではなかったが、皆さん協力的である。

【筑紫支部、佐賀支部】出席者なし

【長崎支部：三村支部長代理】B会員も60%の納入率を上げている。長崎支部としてはA会員も本部徴収にしてほしいと考えている。

【佐世保支部：豊村評議員】学生の時から会があり皆顔見知りということもあり、飲み会の時等に完納して頂いている。今後も問題はない。

【熊本支部：魚返支部長】意識調査を行って本部や福大に対する思い入れを調査すると50%の人しか反応がない。その中で草の根的に手紙や電話で声かけをしているが資料のとおりであ

る。支部会を行うにあたり往復葉書で案内をだすが返事が来るのは半分のみ。

3回生までの先生の中にはどういう立場で言ってくるのかと言われる方もある。会費を払う方、支部会に出席される方が同じ顔ぶれになっているが、50%はキープし60%を目標に努力したい。

【大分支部：鬼木支部長】皆さんのおかげで100%できた。2、3問題のある方もいらっしゃるが電話でお願いした。同窓会とはなんぞやと言われる方もあり、心の中では除名している。やはり支部会の案内を出しても返事すら来ないこともあったが、しつこく諦めずに出していたら顔を見せてくれた方もいた。皆さんの心の奥底には福大出身であるという意識がある。見捨てずしぶとく働きかけて行こうと思っている。B会員についても同様である。

【宮崎支部：野田支部長】やはり50%ぐらいしか集まって来ない。出てこない人は早めにB会員納入の形を取って欲しい。

【鹿児島支部：山下支部長】福岡から遠くなる程意識が落ちてくる。広島や関西は本部徴収になっているので良いのだと思う。全体ではB会員の方がA会員より少し高いが、鹿児島ではA会員の方が高いのでまあいいのかなと思う。A会員の中にも本部から手紙を出してくれたら払いますよという方もいる。資料の1ページのように徴収の方法を早めに切り替える事もあって良いと思う。

【沖縄支部：野原支部長】福大への帰属意識が足りないため今の納入状況が実態である。努力したいとは思うがどうすればいいのでしょうか。

【広島支部：横手支部長】出来たら本部徴収を続けてほしい。支部に会費を払うのと本部に払うとでは受け止め方が違うのか、4月の広島支部会で会費について話した時、やはり本部より徴収してもらいたいとの意見が多かった。

【関西支部：中川支部長】広島同様お願いしたい。

【松本】皆様のご苦労に感謝します。組織力をすでに持っているところはいいが、広域な支

部、めったに合う機会がない支部、帰属意識が少ない支部に関しては、本部徴収に切り替えた方がいいのかもしれない。しかし声を掛け人が集まる事によって組織力が生まれ育っていくという期待もある。

【重田】先ず3年間支部徴収を行う事を決め、今2年目がこの状況であるが来年までこの方法で行いたい。来年の評議員会までに理事会でも検討し、各支部の特徴を生かす方法を支部長と相談したい。そして来年もう一度皆さんの意見を聞きたい。

また会費を納めている人とそうでない人に対して、同窓会から受ける恩恵に格差を付けるべきだという意見がある。会員名簿については前回の評議員会で完納した者だけに配布せよと言う意見が強かったが、その他に本人が死亡した場合の弔慰金や弔花の問題がある。研究奨励賞は既に会費完納を条件にしている。(面接点の件省略)

10) 決算評議委員会省略の件 承認

11) 総会案内・・・第20回鳥帽子会総会実行委員長：柴田陽三理事説明

会員名簿 第7号の発行予告

発行は平成14年初頭の予定です。

従来通り正会員、準会員、特別会員(ただし特別会員のうち退職者は希望のみ)に対し、今回までは無料で1冊ずつ配布します。

有料配布は致しません。

教授就任挨拶

教育計画部発足にあたって

教育計画部 教授 出 石 宗 仁



[出石宗仁(教育計画部)]

- S49. 3 九州大学医学部卒
S49. 6 福岡大学病院
(臨床研修医・内科第二)
S50. 6 九州大学医学部附属病院
(研修医・第三内科)
S51. 4 福岡大学病院
(医員・内科第二)
S53. 7 福岡大学医学部
(助手・内科学第二)
S55. 5 福岡大学医学部
(併任講師・内科学第二)
S59. 4 クリーブランドクリニッ
ク・リサーチフェロー
(~61. 3)
S63. 4 福岡大学病院講師
(内科第二)
H6. 10 福岡大学医学部助教授
(内科学第二)
H13. 4 福岡大学医学部教授
(教育計画部)

本年4月から福岡大学医学部の教育改革を促進するための部署として教育計画部が発足しました。名称や内容はまちまちですが、同様の部署は全国的にも二十数校に設置されています。本学ではまず教授1名と教育技術職員3名（従来の国試対策室の2名（佐藤、菖蒲）と陶山）でスタートしました。

現在の医学教育改革の方向性は、医療過誤、医療不信といった社会的背景のもと、臨床実習を重視し、卒業直後の臨床能力を欧米や他のアジア諸国の医学部卒業生と同等のレベルにまで向上させることに向けられています。本年3月には厚生労働省、文部科学省の強力な支持のもと文部科学省の諮問団体である医学・歯学教育調査研究協力者会議から医学教育の「モデル・コア・カリキュラム」が発表されました。この実践には、講座の再編を伴うようなカリキュラムの改革、教育方法としてのチュートリアルやクリニカル・クラークシップの導入、臨床技能評価のためのOSCE（客観的臨床能力試験）の導入と多くのことが要求されております。さらには、このモデルカリキュラムを基に、臨床実習前の学生が患者に接する前に習得しておくべき知識、技能、態度を充分備えているか否かを確認するための全国統一の物差しを、全国の医学部が協力して作成し実施していくこうとする「全国共用試験」も平成14年度入学生からの本格実施を目指して準備中です。

このような大きな変化に対処し、全国の医学部、医科大学に遅れをとらないために、教育計画部としては学部長や教務委員並びに各種小委員会（基礎・臨床カリキュラム検討、臨床実習検討、授業評価）と協力して、改善計画を立案し、教務委員会、教授会で審議決定していただくことが大きな仕事だと考えています。しかし、システムのみをいくら改革しても教育する側（教員）とそれを受ける側（学生）の双方の理解がなければ効果は期待できません。いかに多くの先生方に協力していただけるかが、福岡大学の教育改革推進の鍵を握っています。そのような理解者、協力者を増やすこと（FD; Faculty Development）も教育計画部の仕事の一つと考えています。また、学生との対話の機会を多くもち、問題点を発掘し双方で解決策を探していくきたいと思っています。福岡大学医学部の理念である「正しい臨床医の育成」に向かって、全員が一致協力して教育を改善し、その同一線上で、外部からの直接的評価の指標である国家試験の合格率向上を期待できるような体制づくりの一助になればと思っています。今までにも烏帽子会の先生方には後輩達への激励やご援助を戴いておりますが、福岡大学医学部を少なくとも私立医科大学のトップレベルにまで押し上げるためになおいっそうのご協力をお願い致します。部屋は医学部別館4階にあり、在室の時は常時ドアを開けておきますので、気軽に訪ねていただき、本学発展のための御提言や御助言を戴ければ幸いです。

平成13年度同窓会研究奨励賞選考報告

選考委員長 朔 啓二郎（1回生）



同窓会研究奨励賞選考委員会も今年で5回目をむかえました。この数年、従来の賞金額（30万円）が研究プロジェクト遂行に安価であること、他の私大同窓会の研究助成金と比較して、金額の桁がちがう事等を執行部に申し入れておりましたが、今年は賞金の増額（150万円の範囲での選考）にご理解を得、さらに将来的に増額できるよう同窓会規約を改正していただきました。今回は2名の先生方、内科学第二：三浦伸一郎先生（第11回生）と内科学第三：岩田郁先生（第13回生）の受賞は簡単に決まったのですが、配分に関してのディスカッションが会議時間のほとんどを占め、最終的には同額の75万円づつになりました。

優秀論文賞として受賞された、内科学第二の三浦伸一郎先生は、5年間の米国留学を終え、昨年帰国され、今年10月から、内科学第二の助手に昇格されます。彼は、留学中の研究業績のインパクトスコアが約40点と、すばらしいの一言ですが、今回の受賞論文はそのなかでも、EMBO Journalに掲載された論文です。G蛋白結合型受容体であるAngiotensin II type II受容体は、リガンドと関連なく、遺伝子レベルによる発現量の調節によって、発現された時点で活性と機能を有していることを世界で初めて明らかにしました。

内科学第三の岩田郁先生はAngiotensin II受容体拮抗薬による肝線維化の抑制効果に関する実験計画での受賞です。長年、臨床を歩んできた先生が積極的に研究をスタートされるとのこ

と、拍手をもって応援させていただきます。

受賞金額の増額のため、やはり選考基準も若干変化すると思います。論文提出でも実験計画でも同じ受賞対象になるのですが、優秀論文賞だから賞金は必要ないとの意見もです。受賞者が同窓会の浄財を利用し、自分の研究を如何に、さらに発展する事ができるか、この点を来年も重視したく思います。

選考委員、1回生、2見、林、朔、3回生大慈弥、廣瀬、5回生木村、6回生上村先生方ですが、皆さんご存知の様に大変な論客ですゆえ、意見がまとまるはずもありませんが、これが同窓会研究奨励賞選考委員会です。さらなる増額を執行部に要望し、かなりメジャーな賞にランクアップしていきます。来年も多数の応募をお待ちします。



右の写真は受賞者

向かって右 三浦伸一郎 氏
左 岩田 郁 氏

奨励賞受賞者の言葉

アンジオテンシンIIタイプ2型レセプターは リガンド非依存性にアポトーシスを引き起こすか

福岡大学医学部内科学第二：助手

三浦 伸一郎 (11回生)

この度、同窓会研究奨励賞を授与いただき誠に有り難うございました。私は昭和63年福岡大学医学部を卒業し、第二内科荒川規矩男教授へ入局、その後、大学院へ進学、平成6年に博士号（高血圧の運動療法の研究）を取得しました。そして、平成7年より米国クリーブランドクリニック研究所の分子心臓病部門に5年半留学し、今年、第2内科へ朔啓二郎教授のご配慮により帰国して参りました。今回受賞の研究はこの留学中に行ったもので、昨年、EMBO J

誌に掲載されたものです。その研究は、G蛋白共役型受容体が引き起こす細胞内情報伝達が、それに結合するホルモンではなく、遺伝子レベルによる受容体発現量調節によって支配されていることを初めて明らかにしたものです。これからは、循環器領域でこのような基礎研究が生かされるように、臨床研究も含め幅広く続けていきたいと思っておりますので、皆様のご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

肝線維化における アンジオテンシンII受容体拮抗剤の影響について

福岡大学医学部内科学第三：助手

岩田 郁 (13回生)

同窓会研究奨励賞に選考され大変うれしく思います。私は、1990年に医学部を卒業した後、本学の1内科に入局し奥村教授のもとで肝臓病学の臨床を行っておりました。1993年には米国から上村先生が戻ってこられ、日本だけではなく海外に目を向けた研究や発表をすべきであるとのことで、1994年と1995年に米国で肝癌の予後の発表を行いました。1996年から3年間は福岡赤十字病院で実践的な肝臓病のトレーニングを行い多くの肝臓病の患者さんを診てきましたが、慢性肝炎から肝硬変そして肝癌の道をたど

り死んでゆくのを診ていますと、肝癌ができる前の状態で肝硬変をどうにかできないかと思つていました。2000年になり内科の改変で3内科に移り、向坂教授のもとで研究も行うようになりました。ここで私は今まで臨床の場でいつも考えていたことを研究のテーマにしました。つまり肝臓癌と肝の線維化です。その研究テーマの一つが今回研究奨励賞に選考されました。実のある、研究が出来るように頑張りたいと思います。

平成12年度研究奨励費研究報告

Increased Chymase Activity in Internal Thoracic Artery of Patients with Hypercholesterolemia

(高脂血症患者における内胸動脈キマーゼ活性の増加) [論文]

福岡大学医学部循環器科（第二内科）

上原 吉就 (16回生)

平成12年度福岡大学医学部同窓会研究奨励賞として、私どもの論文 “Increased Chymase Activity in Internal Thoracic Artery of Patients with Hypercholesterolemia” (Hypertension. 2000;35:55-60) を評価して戴きまして本当に

有り難うございました。

本研究では心臓（冠動脈）バイパス術中の摘出内胸動脈の組織アンジオテンシンII、アンジオテンシン変換酵素（ACE）、キマーゼ（Chymase）の活性を測定検討したところ、い

ずれも血漿LDLコレステロール値と正の相関関係を認め、特に肥満細胞から分泌される、中性セリンプロテアーゼの一つであるこのキマーゼによるアンジオテンシンII産生能が大部分を占めていることが判明しました。現在でも調節あるいはその生体内での存在意義は殆ど解明されておらず、この結果は血管におけるキマーゼの作用解明に大きな一助となる可能性を示唆するものと思われます。その後の研究では、ヒト型キマーゼを持つハムスターへ高脂肪食を負荷すると動脈のキマーゼが増加し、さらにこのキマーゼの特異的阻害薬を投与することによって大動脈の脂質沈着を有意に抑制する結果が得られています。(現在投稿中)

これらの一連の研究結果から組織アンジオテンシンIIは動脈硬化進展に、さらにキマーゼは

脂質代謝にも関連している可能性が示唆され、特に脂質代謝との関係に強く興味を持ったために、昨年6月よりドイツのミュンスター大学 (Institut fuer Klinische Chemie, Institut fuer Arterioskleroseforschung) Assmann教授のもとでポストドクトラルフェローとして働くこととなりました。ここではHDL欠損症の1つであるタンジール病の原因遺伝子としてATP-binding cassette transporter 1 (ABCA1) を同定したことから、世界に先駆けこのABCA1に関連する様々な研究をおこなっています。現在は主にそのABCA1遺伝子のレギュレーションについて研究を行っており、その成果もやっと出つつある状況です。今後これらの経験を生かして更なる新知見また臨床的な応用ができればと願っております。

眼内血管新生抑制作用における接着因子とサイトカインのネットワークの解明（網膜色素上皮細胞の代謝との関係について）【計画】

眼科学 大学院生 内田 博子 (17回生)

【目的】

ビタミンAは視細胞の代謝を活性化し、視機能を保つ働きを行っている。網膜色素上皮細胞(RPE)はビタミンA代謝により老廃物を貪食し視細胞の再生を促し、さらに脈絡膜血管新生の抑制作用を行っている。ビタミンAの一つであるレチノイン酸は、RPEにおいてトロンボスポンジン-1(TSP-1)の産生を増加させる。TSP-1は血管新生抑制作用を示す細胞接着因子で、さらに血管新生抑制因子である腫瘍増殖因子 β (TGF- β)を活性化することが知られる。そこで今回我々は、RPEのレチノイン酸刺激によるTGF- β 蛋白の産生増加を調べ、さらにその系におけるTSP-1の関与とシグナル伝達経路について検討した。

【方法】

2系統のヒトRPEを48時間培養した後、レチノイン酸で刺激し、経時的に培養上清中のTGF- β の増加をsandwich-ELISA法にて測定した。次にTSP-1抗体を加えた後にレチノイン酸を加え、培養上清中のTGF- β を測定した。またRGDSペプチドあるいはTSP-1リガンドを介したシグナル伝達経路により行われている。またTGF- β はRPEのTSP-1蛋白産生を増加し、正のフィードバック作用があると考えられた。

であるインテグリン $\alpha v \beta 3$ 抗体、 $\alpha v \beta 5$ 抗体を加えた後にレチノイン酸を加え、同様にTGF- β を測定した。TGF- β で刺激した後の培養上清中のTSP-1蛋白をsandwich-ELISA法にて測定した。

【結果】

培養ヒトRPEにおいて、レチノイン酸刺激により培養上清中のTGF- β 蛋白の増加が認められた。TSP-1抗体を加えた後にレチノイン酸を加えると、レチノイン酸のみ加えた場合に比べTGF- β の増加は抑制された。RGDSペプチドあるいはインテグリン $\alpha v \beta 3$ 抗体、 $\alpha v \beta 5$ 抗体を加えた後にレチノイン酸を加えた場合もTGF- β の増加は抑制された。またTGF- β を加えると培養上清中のTSP-1蛋白は増加した。

【結論】

ヒトRPEにおいてレチノイン酸はTGF- β 蛋白の産生を促進し、その作用はTSP-1あるいはTSP-1リガンドを介したシグナル伝達経路により行われている。またTGF- β はRPEのTSP-1蛋白産生を増加し、正のフィードバック作用があると考えられた。

造影MRIによる転移性脳腫瘍検出能の検討 —Magnetization transfer contrast (MT) pulseを加えた 造影剤通常量投与T1強調像と造影FLAIRの有用性について [論文]

聖マリア病院神経放射線科 医員

案 浦 清 高 (13回生)

平成12年度研究奨励賞の研究報告をいたします。研究の題名は造影MRIによる転移性脳腫瘍検出能の検討—MTを加えた造影剤通常量投与T1強調像と造影FLAIRの有用性について—であります。造影剤投与後のMRIが転移性脳腫瘍の診断に有用であることは周知の事実です。近年、造影剤を通常量の2~3倍量使用することで腫瘍の検出能を向上し得ることが明かにされ、一方では通常量の造影MRIにMagnetization transfer contrast (MT) pulseという技術を印加すれば、3倍量投与に匹敵する造影効果があると言われています。今回の研究は造影剤2倍量投与と通常量投与にMT pulseを印加した撮像法との間で転移性脳腫瘍の検出能に差があるかどうか比較することを主目的にしました。また高速撮像法の普及に伴い一般に使用されるようになったfluid attenuated inversion recovery (FLAIR)法を造影剤通常量投与後に撮像し、その有用性と臨床的意義について検討を加えました。対象

は転移性脳腫瘍が疑われMRI検査が施行された31例です。男性21例、女性10例で平均年齢は61歳です。原発巣は肺癌29例、子宮癌1例、腎癌1例でした。これらの患者に造影剤の通常量投与後のT1強調像、MT pulse印加後の通常量投与後のT1強調像、2倍量投与後のT1強調像、通常量投与後のFLAIRなどを撮像し、病巣検出能の比較をしました。結果はMT pulseを印加した通常量投与後のT1強調像と2倍量投与後のT1強調像の検出能はほぼ同等でありました。つまりMT pulseを印加した通常量投与後のT1強調像は転移性脳腫瘍の検出能を低下させることなく造影剤の低減化が可能となり、患者の身体的負荷や経済的負担を軽減させることができます。また造影剤投与後のFLAIRではその画像の特徴から脳表の微小病変が検出できることが明かになりました。以上、簡単ではありますが、研究報告をいたしました。

ヒトてんかんと同じ遺伝子異常を持つモデル動物の作成 [計画]

小児科 助手 井 上 貴 仁 (15回生)

申請者自身らがヒトてんかんで見いだした遺伝子異常をラットの相同遺伝子に導入し、組換えラットを作成するために以下のことを実施した。ラットはマウスに比べてんかん実験法が確立しており、作成したラットは多くの研究施設で利用可能になると考えられる。

I. ヒトの遺伝性てんかんである常染色体優性前頭葉てんかん(ADNFLE)、全般てんかん熱性けいれんプラス(GEFS+)で、発見されたCHRNA4、SCN2A遺伝子の異常をラット相同遺伝子に導入し、これをcRNAとしXenopus卵細胞に導入またはHumanembryonic kidney cell HEK細胞にcDNAを導入発現させ4~8時間後より得られる膜電位を検証し、電気生理学的異常が再現できるか確認した。

結果：Crna4, : c.743C>Tとc755C>T、導入アセチルコリン受容体：CHRNA4では、野生型に比べ、急峻なdeactivationが観察された。
これはすでに報告されているCrna4, : c.743C>Tをもつアセチルコリン受容体の電気的特性に類似していた。Scn1a : c.1417T>C導入Na⁺チャネルα2サブユニットは、野生型に比べ、遅いdeactivationが観察された。これにより、Na⁺チャネルは興奮やすくなり、けいれんが導かれることが実証された。

II. ヒトてんかんと同じ遺伝子異常を有する遺伝子組み換えラットを作成するために、上記で電気生理学的特性を検証した変異を有するcDNAをニューロン特異発現用PDGFプロモーターに組み込み、これをラットの相同遺伝子に導入して組換えラットを作成する。

ロモーターを持った、ほ乳動物ベクターに移入し、ベクター利用しラット卵細胞に導

入中であり、本年中にF1動物の作出が予定されている。

バンコマイシン耐性MRSAにおける バンコマイシンと β -ラクタム系抗生素の併用の危険性 [論文]

微生物学 助手 原賀勇壮 (16回生)

昨年は、優秀論文賞に選んでいただきましてありがとうございました。この論文は、前回の研究奨励賞に選んでいただいたことが、大きな励みになりました。本当にきつい実験が多く、途中でくじけそうになったことが何度もありました。「賞」に選ばれていなかったら途中で諦めていたかもしれません。選ばれたからこそ、誇りをもってやり遂げることが出来たのかもしれません。このような機会を与えて下さいました同窓会の皆様には、心より感謝申し上げます。以下ご報告させていただきます。

■はじめに

1997年に世界で始めてバンコマイシン(VCM)の効かないMRSAの存在が報告されました。それはちょうど、私が大学院1年になった頃でした。たまたま、当院救命センターに入院した小児熱傷患者さんがVCMが最初は効いていたものの、徐々に効かなくなったりましたので、詳細に調べてみたところ、まさにこの菌が関与した感染症であることがわかりました。最初の研究奨励賞をいただいたのはこの頃でした。現在では、同様の株の存在は世界中で報告されるようになりました。

■「耐性」の概念

1. hetero-VRSA

我々が、前述した小児熱傷患者さんから分離した株は、(国際的な臨床検査の基準の)NCCLSの分類によるとVCMの最小発育阻止濃度(minimal inhibitory concentration : MIC)は、2~4 $\mu\text{g}/\text{ml}$ で「感受性」に分類されます。しかし、詳細に検討すると、この菌の母集団の大多数はVCMに感受性であるためMICを計測

すると「感受性」として判定されるものの、母集団の中の少数の菌は、MICが4 $\mu\text{g}/\text{ml}$ 以上であり、「感受性」ではないため、このような耐性は同種的(homogeneously)ではなく、異種的(heterogeneously)であることからhetero-VRSAの名称が使われるようになりました。我々は、幾つかの言葉の定義上の問題から論文中では、このようなMRSAを vancomycin low levels resistant *Staphylococcus aureus* (VLSA)と呼んでいます。この菌の感染患者にVCMを投与すると、当初は効いているものの、徐々に耐性を獲得し効かなくなり、検査上は「感受性」のままでも臨床的には「耐性」となり、更には高レベル耐性のVISAへと発展するのが特徴です。

■VCM耐性MRSAの問題点

共同研究者の野村先生の研究によるとVLSA(hetero-VRSA)株は、当院全体で検出されるMRSAのうちの約20%を占めることがわかっています。

このような菌に対して、当初VCMと β -lactam系抗生素の併用が有効であろうとの報告があったのですが、我々は逆に、VCMと β -lactam系抗生素を併用すると耐性菌の出現頻度が数百倍にも上昇することを見出しました。(Haraga I, et al. The effects of Vancomycin and β -lactam antibiotics on Vancomycin-resistant *Staphylococcus aureus*. N Engl J Med 1999; 341: 1624-5)

この点に関しては、今までのところ、特に反対する論文なども出ていません。安易なVCMと β -lactam抗生素の併用療法は、避けることが望まれます。

部長奮闘記

地域の核となる肝臓病治療を

福岡赤十字病院 内科第三部長

上 村 精一郎 (6回生)

今年の7月末、福岡大学医学部同窓会事務局長の池田さんより、次回の同窓会会報のなかで部長奮闘記に何か書いてほしい主旨のお手紙を頂いた。暫くの間、さて本当に何を書けば期待に沿えることが出来るものかと思案に暮れてしまつた。要請に対する適切な内容のものをと思いを巡らしたが、元来筆不精と面倒くさがり屋を身上としているため、美しい文章やおもしろい内容などは諦め、今までの経緯と足跡をたどることとしました。

昭和58年3月に福岡大学医学部を卒業して、福岡大学医学部の旧第一内科に入局した。医学部の学生時代は、野球部に在籍しそのほとんどは野球をしながらすごした。そのため自慢にならないが学業成績は極めて悪く、周りの人々に多大な迷惑をおかけした。しかしながら、強運にめぐまれ一度も留年をせず、国家試験も一度で合格できたのは奇跡に近かつた。これもまた周りの人々の多大な支援の賜物と、今でも大変感謝している。そのため、研修医生活は苦悩と苦痛と猛勉強の日々となった。その後、どうにか2年間の研修医生活を終え旧第一内科の医員となり、福岡大学筑紫病院内科消化器科の医員を経て、昭和62年12月より不安と心配を抱え渡米した。最初の2年半は、カリフォルニア大学医学部デイビス校の内科医員をして、その後、指導教授の榮転に伴いオハイオ州クリーブランドのCWRU医学部内科へ移った。主にアルコール性肝硬変症の発症原因の研究や脂質過酸化、活性酸素による遺伝子の障害性などの研究を手がけて、平成3年8月に福岡大学へ戻った。帰国後も主にラットを使った実験研究を続け、平成5年にFUKUDA I M O D E Lと銘うたったアルコール性肝線維症ラットモデルを、共同研究していた大学院生らとともに開発した。平成6年には短期間ではあったが、再び米国へ渡りロサンゼルスの南カリifornia大学へ追加研究をするために出かけたりもしていた。よって、帰国後の大半はもっぱら大酒飲みに関するメカニズムの研究などを中心とした生活を送っていたことになり、ときどきは中洲あたりで自らの体を使って（周りの人々もまきこみながら）、大酒飲みによる臓器障害の特性を検証したりしていた。

平成7年の暮れに福岡大学医学部の旧第一内科、奥村恂教授より福岡赤十字病院消化器科の肝臓内科副部長として赴任し、肝臓内科を立ち上げるように要請を受け、平成8年4月1日福岡赤十字病院に着任した。着任当初は、医員1人と小生の2人であった。一月の外来患者数は、約200人で、入院患者数は、約15人程度であり、やっていたことと言えば、僅かな肝生検とインターフェロン療法であった。その後、肝生検（年間約60例）、C型、B型慢性肝炎に対するインターフェロン療法（年間約40例）、肝ガンに対するエタノール注入療法（年間約90例）、P M C T / R F （年間約20例）や放射線科職員の協力のもとT A I （年間約60例）、T A E （年間約30例）を行い、現在ではリザーバー留置による局所および全身化学療法（年間約20例）を行っている。また食道胃静脈瘤に対するE V L （年間約80例）、E I S （年間約100例）も行うようになっている。よって現在、有難いことに増員をして頂き、医員3人、研修医1人の計5人となっている。また一月の外来患者数は、約900人で、入院患者数は、約50人となっている。平成11年4月からは、当院の検診部門に新たに加わった腹部超音波検診（年間約6000人）も肝臓内科全員で担当している。最近、最新鋭でか

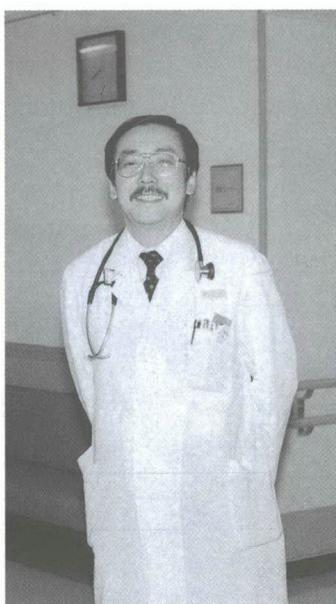
なり高価なフルデジタル超音波断層装置を購入して頂き、末梢血管から手軽にできる造影超音波検査が可能となり、肝臓ガンの治療前後の診断および評価が飛躍的に向上して、かなり満足のいく結果を得られている。

ところで私自身は、平成8年6月より厚生労働省の外郭団体である介護労働安定センター福岡支部の講師と福岡赤十字病院看護学校の講師を併任し、平成12年10月より福岡赤十字病院臨床検査部（技師数34名）の部長も兼務することとなり、仕事量は一気に倍加して体を壊しそうな忙しさとなってしまっている。しかしながら、遊ぶことにかけては、一目おかれる存在を維持しており、野球部の助監督兼選手とソフトボール部の選手となり、南区のリーグ戦や大会に出場している。昨年、悲願であった日赤スポーツ大会の全国大会に出場して、ソフトボール部は準優勝を遂げた。なお野球部は、九州大会第3位であった。

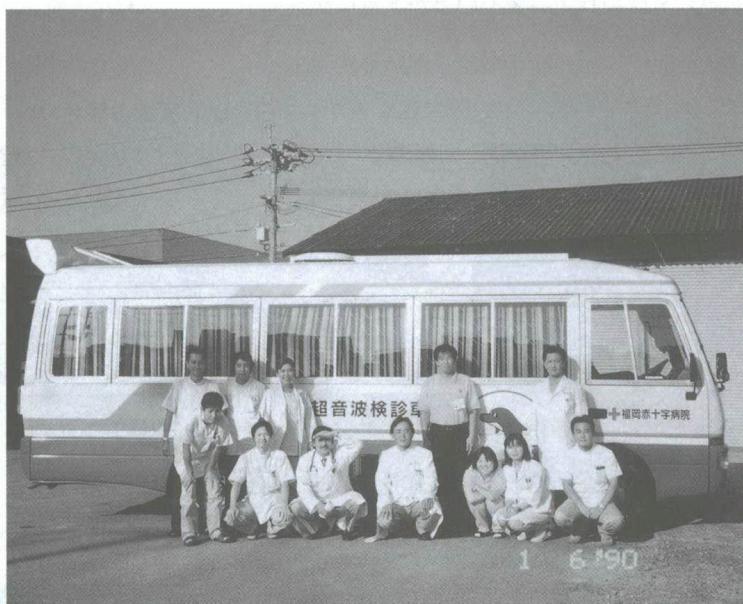
ここで福岡赤十字病院の沿革を少し述べたいと思います。日本赤十字社は、西南戦争のさなか明治10年に、明治天皇および皇后陛下より資金供与を賜り設立された博愛社に始まります。陛下のご下命により西南戦争の際博愛社

は、薩軍と政府軍の傷病兵を分け隔てなく、助けました。そして、明治20年5月に日本赤十字社が正式に発足しました。その後、全国に診療所が開設されていくなか、福岡赤十字病院の前身である日本赤十字社福岡支部福岡診療所は、旧海軍の要請も受け昭和8年6月に現在の中央区須崎公園北側に開設されました。しかし、昭和20年6月の空襲により焼失した為、昭和22年12月に福岡市南区の現在地に移築されました。そして、昭和27年4月より福岡赤十字病院として診療を開始し、現在に至っています。また、平成13年4月より日本赤十字九州国際看護大学が開校したことにより、福岡赤十字病院はその付属病院として機能しています。

最後に、現在在籍している肝臓内科の5人の医師はすべて福岡大学第三内科からの派遣です。福岡市内の拠点病院の一角を確保するため、また周辺地域医療の向上に役立つため、日夜懸命に一致団結して、努力をつづけております。よって、今後とも同窓会の諸先生方のご支援やご協力をひらにお願いしつつ、稿を終えたいと思います。



筆者（担当の患者さん）撮影



超音波検診のスタッフと共に（前列左から3人目が筆者）

報 告

M4 激励会

理事（学生担当） 井 上 隆 則（7回生）



平成13年9月7日、福新樓にて行われました。当日の出席はM4：75人。OB：30人。そしてM5：5人。M3：2人。合計112人でした。恒例により高木会長の挨拶から始まり、集まって頂いた諸先輩からのやさしい、

そして熱意のこもった激励の言葉をかけて貰いました。

この会の意義は、M4からM5に進級するに当たっての壁をしっかりと勉強して乗り越えて欲しいという事と、そしてそれは、いずれやってくる国家試験に向かっての意気込みを決心する時が来たという認識を深めて貰う事と同じ意味でした。本当は100名全員の出席を期待していましたが、何人かはどうしても抜けられない事情があり結果的に75人という事でした。またOB、OGは私達本部の理事はもちろんですが、地元の福岡支部、そして北九州支部からも平日にも関わらず、多くの方が本気になって学生達の為に駆けつけてくれた事も大きな意義があると思います。昨年のM6激励会に始まった

学生に対する事業は、このM4としては初めての事でした。これから何回も重ねて行く事によって、ここにも烏帽子会としての新しい伝統がきっと生まれてくると信じています。

またこの日の目玉は、実は烏帽子会特製の白衣を彼らに送る事でした。残念ながら、まだデザインが完成しておらず、本物は後日完成した後で贈呈する事にしましたが、林教授の推薦で日本中どこにもない烏帽子会オリジナルのカッコ良い白衣となるはずです。彼らは、私達の誇りをシンボライズした白衣を着て、大学病院での実習に臨む事になるのです。

そうして当日は正味2時間の宴会があつという間に過ぎて行きました。

最後は、また2年後に同じこの福新樓で再会する事（M6激励会）を約束して、全員で校歌を歌って締めくくりとなりました。

さて、現在は先輩と後輩という上下関係が表向きになっていますが、私は彼らの中に、私達先輩を追い越して素晴らしい才能を開花させ得る人材が潜んでいると思っています。今回参加して頂いた先輩方に限らず、これからはもっと多彩な先輩方にもどんどん来て頂いて、私達の後を継いでくれる彼らと接点を持って欲しいと願っています。

下記の写真は4月26日、M6国試激励会の時の写真です。



先輩も後輩も語る・語る・語る・語る・

教室紹介

内科学第三 新しい教室と新しい教室員と 新しい診療、教育、研究をめざし

内科学第三併任講師 渡邊 洋（4回生）

福岡大学内科学第3教室は、2000年4月に現・向坂教授就任を期に設立された新しい教室です。診療科目としての名称は消化器内科で、肝胆道系と消化管の疾患を幅広く診察しています。まだできたばかりの新しい教室ですが、旧内科学第1教室の消化管研究室と肝臓研究室の伝統を守りつつ、新しい診療体系の中で最新の検査と最新の治療を行っているという自負があります。

マンパワーは教室の維持には不可欠の要素ですが、一時期の人材の多数流出（？）の危機は何とか脱し、现有医局員は大学内に研修医を含め38名、関連病院に17名の計55名と徐々に増員してきました。ただし、教育スタッフでは福岡大学出身者はまだ半数強であり、自学出身者の奮起が待たれます。

ここでは臨床面での診療内容を中心に述べたいと思います。

消化管疾患：食道、胃、十二指腸、小腸、大腸のあらゆる疾患を対象としています。疾患として頻度が高いのは潰瘍、ポリープ、癌などで、特に癌の早期発見には熟練医の診断能力が必要ですが、当教室では毎日の外来診療と消化管造影検査および内視鏡検査を行っています。また、内視鏡機器の進歩と手技の熟達に伴い、初期の潰瘍は開腹手術なしで内視鏡を使って治療できるようになり、多数の内視鏡治療の実績を有しています。また、クローン病や潰瘍性大腸炎などの炎症性腸疾患の治療も数多く手がけており、多くの治療実績もあげています。さらに劇症肝炎、重症肺炎などの重篤な疾患に対しても、当院救命救急センターに出向している消化器科チームと共に治療を行っています。

肝胆道系疾患：当教室では、慢性肝炎に対し発癌予防という

目的で、過去500症例以上のインターフェロン(IFN)やラミブジンなどの抗ウイルス療法を導入し、高い治療効果をあげています。また肝硬変症における食道静脈瘤、胃静脈瘤の治療として内視鏡的結紮術(EVL)や内視鏡的硬化療法(EIS)を行っています。また、国内外の移植外科と協力し、進行した肝硬変症には肝移植を行い、数多くの患者が良好な経過をたどっています。さらに肝細胞癌の早期発見には専門医のスキルが必要ですが、当教室では毎日の外来診療と腹部超音波検査を行っています。また、肝細胞癌の治療に関しても、エタノール注入療法(PEI)やラジオ波焼灼術(RFA)の所要時間は20分程度で、患者に対する時間的、経済的負担も軽く、高い治療効果をあげています。進行した肝細胞癌に対しても放射線科と協力して肝動脈塞栓術(TAE)やリザーバー植え込みによる化学療法も積極的に行ってています。

最後に、我々の教室は診療、教育、そして研究という大学医学部の3本の柱となる分野を、よちよち歩きかもしれません、なんとか独り歩きを始めたばかりです。OBの方々も暖かく見守りつつ、誤った方向へ進むような可能性でもあれば遠慮なく御指導頂ければ幸いです。



会員寄稿

Dr. マジックの医療と Magicによる国際NGO活動報告

医療法人三喜会 伊藤病院 院長 伊 藤 実 喜 (3回生)

(日本レイテ友好協会理事、フィリピン・ディ・オカンボ医大教授)

Dr.マジック誕生

趣味で始めたマジックが、国際交流の主役になろうとは予想もしなかったことでした。福岡大学医学部大学院人間生物系での医学博士取得のための研究生活から少しでも気分転換を図ろうと、趣味でマジックを始めたのは今から16年前。凝り性の私は、早速マジックコンテストにチャレンジし、九州大会準優勝、全国大会3位入賞、そして1993年、第60回PCAM(Pacific Coast Association of Magicians)世界奇術大会(カナダ・バンクーバー)に日本アマチュア代表として初出場し、初優勝までしてしまった事で、医療や介護の現場や老人クラブや公民館の健康講話、さらにNGO等にマジックを活用する中で、いつの間にか“Dr.マジック”と呼ばれるようになりました。

フィリピン医大客員教授へ

4年前からフィリピン・レイテ島にて医療と文化交流活動(NGO)を行っています。これは、太平洋戦争の激戦地レイテ島での慰靈活動から発展したもので、1999年2月、医療活動や経済救済を行うレイテ生活研修センターが、郵政省ボランティア支援事業基金等によって完成。さらに、簡易水道設置、診療サービス、日本語教室、チャリティーマジックショー開催による文化交流、農業技術指導等を実践してきました。また、2000年4月には、マニラ市のディ・オカンボ医科大学の学長がこれまでの活動を評価してくださり、私は、客員教授(国際医療学)に任命されました。それも、同学の学園祭にボランティアで“Dr.マジックショータイム”として出演したことがきっかけでした。さらに、8月には福大医学部5年生松原周子さんも参加し、3日で100名の医療検診も行いました。

マジックはこれらの医療活動に多いに役立ちました。

第1回日比・チャリティーマジックショー&メディカルミッション開催

こうした経緯を経て、フィリピンのマジシャンとの交流並びに日本とフィリピンの友好を目的に、ストリートチルドレン支援と医療活動支援のための「チャリティーマジックショー&メディカルミッション」を開催することとなりました。その記念すべき第1回のイベントが、2001年2月8日から15日まで、マニラ市とレイテ島で行われました。日本からは6名が参加、さらにフィリピンのインナーマジッククラブのご支援を得て合計5カ所、延べ4000人の子供たちにマジックをプレゼントしました。

まずは、ディ・オカンボ医科大学学園祭会場でフィリピンのマジシャン6名と約500人の学生に盛りだくさんのチャリティーマジックショーを展開。その興奮もさめやらぬうち、次の会場であるバイオス教会(ストリートチルドレン孤児院)へ。550人もの子供たちの驚きと喜びの笑顔を見て、改めてマジックショーを実現できたことの感動を覚えました。

さらに、ストリートチルドレン400人をディナーに招待してのディナーマジックショーも行いました。これは、日本のスポンサーからの1000円で子供2人を招待できるものでしたが、結局、20万円のご支援を頂き、400人の子供たちを招待することができました。

一方、レイテ州知事のご支援により、地元の医者と歯科医10名のご協力のもと、約600人のMedical Missionも行いました。現地では医療保険が整備されていないため医療費が高く、治療が受けられない症例が実際に多い事がわかりました。その夜も、同じ場所でレイテ州知事をはじめとする約1500人の観衆の前でチャリティーマジックショーを披露。そして、最後はレイテ島タクロバンから車で2時間のビリヤバ町へ。ここは3年前、最初の医療とマジックショーを行

った、いわばフィリピンのNGO活動の原点。早速、医療サービスを開始すると、そこには懐かしい顔、顔、顔・・・。夜は5回目のチャリティマジックショーを開催し、生活研修センターでは旧友たちとの交流会で盛り上がりました。

こうして、多くの充実した体験と子供たちとのふれあいの中で8日間にわたる「チャリティーマジックショー&メディカルミッション」が

終了。このNGO活動は今後も充実させたいので、是非福大医学部同窓会の御支援をお願い致します。今回のツアーを支えてくれたマジックの仲間たち、フィリピンの医者たち、そして日本の仲間たちに対する感謝の気持ちでいっぱいの感動を胸に、福岡空港に到着しました。その夜、心地よい疲労感で眠りについた私は、すでに来年のNGO活動のことを夢見ていました。



ドクター伊藤



マジシャン伊藤

関西医大同窓会役員の先生方との懇親会

鳥帽子会理事 朔 啓二郎（1回生：内科学第二教授）

昨年の秋、全国私立医科大学同窓会連絡会（西部会）に、高木会長、重田副会長と出席しました。懇親会で関西医大同窓会副会長の村上康子先生と偶然同席させていただき、初対面でしたが、どういう訳か「仲良し」になりました。その後、耳鼻科学会で先生が来福された時、お昼をご一緒したり、手紙のやりとりをしていたのですが、先生の私学医学部同窓会に対するゆるぎない理念と姿勢を、是非、我校同窓会役員に伝えていただきたく、今年5月に関西医大の同窓会の先生方との懇親会を「とり市」で開きました。村上康子先生（昭和19年卒）、西岡繁子先生（昭和19年卒）、川田喜代子先生（昭和25年卒）、川村くに先生（昭和29年卒）、米

田圭子先生（昭和38年卒）のパワフルなお話を伺い、我々4名ただ感激するのみでした。明らかに医学部の歴史と闘争の違いですね。まだまだ若僧の我々でした。



福岡大学医学部同窓会支部便り

佐世保支部便り

佐世保支部長 山川 裕 (4回生:山川医院院長)

再び支部会便りの文章を書くように言われて、筆を執る次第です。佐世保支部も平成10年('98)10月に発足してそろそろ3年になる。長崎県は知つての通り、南北に長い県であり、佐世保市を中心とした県北地区と、長崎市を中心とした県南地区とに分かれている。平成10年までは長崎県は長崎支部に統一されていましたが、支部会があつても県北から長崎市まで行く人はほんのわずかで、県北にも支部を作ろうとして、佐世保市を中心に、遠方では平戸市、壱岐、対馬を含んで発足した。現在は壱岐、対馬は福岡支部に編入し、開業医会員数12名、勤務医は長崎労災病院整形外科、江迎病院内科、佐世保共済会病院眼科、産婦人科、千住病院内科、佐世保中央病院脳外科、内科など14名程度、合計26名くらいです。

年に1~2回の集まりしかないが、出席率は90%以上である。佐世保支部は小さな地区なので、医師会の講演会や勉強会などで参加した

折りにお互いに、本部の連絡事項を伝え合つたりしている。

造船業界の不況で佐世保重工業(SSK)が傾き、10年前にオランダ村からハウステンボスにと発展して明るい光が見えたと思ったら、その3年後には予想もないバブルのはじけで、入場者数も足踏みの状態。しかし来年にはハウステンボスの隣りに日本中央競馬界の場外馬券センターが発足するため、現在建設中です。また佐世保のおくんちも数年前から、よさこいダンスバトルが組み入れられ、長崎県以外の都市からも参加し、市内のアーケード内や、ハウステンボス園内、西海パールシーでダンスを披露し、長崎市の昔ながらのおくんちに対抗し、市内の浮揚に一役担っている。そんな佐世保地区的頑張りに負けないように、我らが佐世保支部会のメンバーも力を合わせて頑張りたいものです。

キャンパス便り

第53回 西日本医科学学生総合体育大会結果一覧

平成13年7月28日~8月12日

代表主幹校:産業医科大学

愛好会名	結果
ラグビー	1回戦敗退
バスケットボール	男子2回戦敗退・女子2回戦敗退
準公式野球	1回戦敗退
ゴルフ	団体戦16位・個人戦6位(M5 小島大望)
剣道	予選リーグ敗退・新人戦ベスト8(M2 丸尾達)
サッカー	第3位
バレーボール	男子1回戦敗退・女子2回戦敗退
硬式庭球	男子1回戦敗退・女子1回戦敗退
柔道	決勝トーナメント1回戦敗退
卓球	男子2回戦敗退・女子1回戦敗退
空手道	団体戦4位・個人戦ベスト16

ソフトテニス	男子2回戦敗退・女子ベスト8
漕艇	2回戦敗退
バドミントン	男子2回戦敗退・女子3回戦敗退
水泳	順位なし
弓道	男子32位・女子22位
全日本医学生アーチェリー競技大会	男子団体4位

サッカーデ部分…好成績 3位

サッカー愛好会 福嶋 浩文(3年生)

7月29日から8月3日にかけ、本城陸上競技場、遠賀総合運動公園にて、第53回西日本医学生大会が行われた。この大会で、我々サッカー愛好会は第3位という好成績を収めることができた。大会期間中、毎日30度を超える猛暑の中、1回戦から3位決定戦までの6試合を戦い抜いた。

★1回戦 藤田保健衛生大学戦

先攻されるものの攻撃陣が爆発、桜井、平井、泉、安川、大田の連続得点で5-2の快勝。

★2回戦 長崎大学戦

この試合も2点ビハインドという苦しい展開。ここから、安川のミドルを皮切りに泉、平井のゴールで逆転。しかし、終了間際に追いつかれ、3-3、PK戦へ。8人目までもつれるも、6-5で辛くも勝利。

★3回戦 関西医科大学戦

強豪熊本大学を破った未知の相手。試合は、点の取り合いのシーソーゲーム。2-2のままPK戦へ。4-3の勝利で初のベスト8進出。

★準々決勝 金沢大学戦

特筆すべきは相手のGK。195cm(推定)にU-16代表の肩書きをもつらしく、チャンスを作るもなかなかゴールを割れない。しかし、後半に入り、エース福田が爆発。彼の2点が勝負を決め2-0。

★準決勝 佐賀医科大学

ベスト4、そして相手は佐賀医科大。九山大会のリベンジを果たすには最高の舞台。必勝を誓い試合に臨んだ。先制されるも、泉のゴールで追いつくという一進一退の展開。しかし、決勝点を佐賀医に奪われ惜敗。

★3位決定戦 高知医科大学

前日の敗戦も、この日勝てば3位でメダル獲得がモチベーションとなり、この日のヒーローは平井。3回戦で痛めた足を引きずりながらも先制点、勝ち越しゴールで2-1。3位を決めた。

表彰式では疲れはあったものの、部員の表情は晴れやかだった。

ここで先に戦ったメンバーを紹介する。

1番GK 山田大樹。

最後の砦として福大のゴールを幾度となく救った。

2番DF 福嶋浩文。

途中からの守備固めとしてチームに尽くした。

3番DF 篠田竜平。

左サイドバックとして、体を張った守りでチームに貢献。

4番DF 桜井真一。

DFリーダーとして最終ラインを統率。チーム初得点は彼のPK。

5番MF 泉 良範。

ゲームキャプテンとしてチームを率いた。守備はもちろん得点力を見せつけた。

6番DF 森下誠士。

的確なコーチングとカバーリングは、チームに安定感をもたらした。

7番MF 森下 崇。

豊富な運動量で攻守に亘りチームに貢献。

8番FW 大田大樹。

彼の右サイド突破とクロスはチームの大好きな武器だった。

● キャンパス便り ●

9番FW 山田寿彦。

サブとして、前線からの精力的なプレッシングはチームを救った。

10番FW 福田臨太郎。

福大のエース。大会が進むにつれ、圧倒的な力を見せつけた。

11番MF 角俊一郎。

様々な状況、ポジションでその俊足を生かし走りまくった。

13番DF 山崎靖人。

フィールドの内外から大きな声でチームを元気づけた。

14番DF 三宅 仁。

左サイドやセンターでその高さと速さを生かした。

15番FW 平井 健。

5得点はチーム得点王。圧倒的な高さはまさに「空の王者」。

16番DF 宮原大輔。

大きなフィードは苦しい時のチームを救った。

17番MF 安川重義。

若き司令塔。パスだけでなく、得点力も見せた。

主将 鯉坂和彦。

今回、監督として、グラウンドの外から指示を送った。彼なくして今回の結果はありえなかった。

副主将武富啓能をはじめ、チームを支えてくれた田中亮介、堀直弘、佐藤啓介、柴田亮輔、荒木陵多、大淵英徳、永田済。そして選手の影で頑張ってくれたマネージャの皆さん。週6日というハードな練習が最高の形で表れたと思う。今回だけでなく、これからも強い福大であるために努力したい。

最後に応援して下さった方々、西医体委員の皆さんありがとうございました。



留学生に考えさせられた事

原田聰志（4年生）

毎年、夏休み期間中、ESSは、外国からの留学生の受け入れをやっておりまして、今年も3名の留学生（スウェーデン人のユーナス君、イスラエル人のモランさん、トルコ人のニハルさん）を受け入れました。彼らは、各々の国の大医学部の5年生で、7月末から8月末までの四週間を福岡大学病院で研修させてもらいました。朝から夕方の4時まで病院で研修をさせてもらった後、それぞれの科で夕食会や花火大会等に誘ってもらったり、土、日曜日は太宰府や長崎、別府等の九州の観光地を僕達と一緒に旅行をしたりと楽しく思い出に残る一ヶ月を過ごせたと思います。僕は、この夏休みの間のはば一ヶ月間を彼らと共に過ごしたのですが、その時に印象に残った事の一つとして、宗教のことを書こうと思います。

イスラエル人のモランさんは、福岡に到着した夜、空港から寮（片江研修館）まで車で送っていく間に、たくさんの質問をしてきて、その中で、「あなたの宗教はなんですか？」というのがありました。彼女は、自分はユダヤ教であると言った直後に、聞いてきたのです。僕は、自分の宗教など考えた事もなかったものですから、戸惑いましたが、「僕は宗教を持ってないけど、正月には神社で拝んだり、お盆は仏壇で拝んだりする。」と答えました。すると今度は「日本人の宗教は何ですか？」と聞かれたので、「神道とか仏教とかキリスト教とか色々あるよ。」と答えました。彼女は、「ふーん。」とうなずいて不思議な顔をしていたのですが、僕自身は、何だか決まりが悪く感じました。なぜなら、僕自身、宗教を持っていないと言っていながら、神社を拝んだり、仏壇を拝んだりしているなどと、矛盾した事を言っており、又、日本人の宗教と言われても、正月は神社に行き、お盆は仏壇で拝み、クリスマスを祝っている日本人は、本当に信仰心があるのだろうか？、

日本人は宗教を持っているのだろうか？、と思ったからです。僕は、他の留学生はどうであろうかと宗教について聞きました。ユーナス君はプロテスタントで、ニハルさんはイスラム教であり、その独自の習慣を持つ事を教えてくれました。特に、ニハルさんは、宗教上、豚肉が食べられない為、いつも一緒に食事をする時に、豚肉が入っているかどうか尋ねたものでした。僕の感覚としては、これ位いいじゃないかと心の底で思う位のものでも、彼女は全く食べようとせず、彼女にとって宗教とはこんなに強いものなのかと驚いたものでした。僕は、彼らを通じて、宗教について改めて考える機会を持ったと思います。彼らは何か一つの宗教をもっているのに、なぜ僕は持っていないのか？、別に持たないからと言って悔しい気持ちは無いが、キリスト教、イスラム教、ユダヤ教等の宗教を持っている彼らと宗教を持たない僕はどう違うのか？、又、あらゆる宗教が混在しながら、それを普通に受け入れられる日本人は、特殊なのだろうか？、等です。

宗教以外でも、日本の伝統、歴史、風土、政治、文化について留学生に尋ねられて、それに答える為、調べたり、考えたりしたのですが、今、思い返してみると、留学生のおかげで、日本を以前より深く理解できたと思います。



訃 報

後 藤 英 文 (11回生)	平成13年2月25日逝去	佐賀県唐津市栄町2570-9
山 口 建 也 (7回生)	平成13年5月20日逝去	長崎県青山町1-5
元 永 隆 三 (1回生)	平成13年7月 4日逝去	北九州市小倉北区田町12-19
和 田 耕 一 (10回生)	平成13年8月 9日逝去	愛媛県松山市御幸町2-4-26

山 口 建 也 さん

井 上 隆 則 (7回生)

私が山口さんと身近になったのは、学生時代、M5のSGTで同じ班になった時でした。当時から、大先輩でありながらも、その温厚なやさしい性格にはいつも感心していました。

一方で、年齢的な影響もあってか、勉強に対する集中力に自信が持てずに、私と一緒にになって、不勉強同盟を組む事も多く、常にいかに効率よくSGTをクリアしていくか、という事ばかり考えていたと思います。そのSGT、私達は精神科からスタートでした。そしてちょうど、その時が病棟のクリスマス会の時だったので、自然の成り行きで私達も出演する事になり、みんなで歌を歌いました。その際、山口さんの声量のすごさにびっくり。舞台に立って歌う事に恥ずかしさがあった私達とは別に、実に堂々と腹から声を出して歌ってくれました。その当時の参加者がとても喜んでくれて、たくさんの拍手を頂いたのでした。

そうして、結構楽しい雰囲気でスタートしたSGTでしたが、その後は山あり谷ありの連続で、不勉強同盟の私達は、いつも教授のご機嫌を伺い、指導医の説教に耐えて、何とか一年をやり通したものでした。そして、苦楽を共にした仲間として目出度く一緒に卒業。

しかも、国試浪人まで一緒に付き合うほどの仲良し?だったのです。

結局、私は一足先に医師となり、全ての研修医と同じように多忙の中に突入し、山口さんが合格した事は随分後で耳にする事になりました。

それから何年経ったか忘れましたが、次にお会いしたのは、(結局これが最後になりました)二年前の東京で、日本医師会認定健康スポーツ医の研修の時でした。会場で偶然お見かけして、昔とちっとも変わらないのですぐに分かりました。何で、不勉強同盟の私達が、こんな所で一緒になるなんて、ちょっとびっくり。「何で?」と尋ねたら、「だって、これ聞くだけで取れる資格だし、簡単に取れるものなら取つとこうって思ってね。」とにっこり返事。私は、笑って、心の中で「ちっとも変わんないなあ」と嬉しく思ってしまいました。

平成13年5月20日だったそうです。第一報は翌朝、烏帽子会の事務局に入りました。

私が7回卒で同期だった為、すぐに連絡が入りましたが、二年前の東京での笑顔が浮かんで来ました。詳しい状況は分かりませんが、学生時代からいくつかの持病を持っていたので、色々な事が重なってしまったのだろうと思いました。もう、天国でしか会えなくなりましたけれど、それまで私は、山口さんの面影を忘れませんよ。今は、ご冥福を祈るばかりです。

福岡大学医学部同窓会資料集

平成12年度収入支出決算

区分	科 目	12 予 算	12 決 算	12年度決算予算比較	決 算 内 訳
収入	繰 越 金	3,881,523	3,881,523	0	
	会 費 収 入	13,781,000	21,325,241	▲7,544,241	入会費：97件・4,735,430 学年会費：565件・5,621,390 年会費：1,105件・11,004,421
	協賛金収入	786,000	938,390	▲152,390	パニックマニュアル：239件・938,390
	手数料収入	1,350,000	1,082,858	267,142	紹介手数料：三井・37,184 集金手数料：三井・1,045,674
	雑 収 入	12,000	32,000	▲20,000	預金利息：4,070 名簿代他：27,930
	預り金収入	122,000	113,216	8,784	
	積立金繰入	0	0	0	
	仮 受 金	0	600,000	▲600,000	代理店勘定資金不足のため同窓会勘定仮渡金から
支出	合 計	19,932,523	27,973,228	▲8,040,705	
	給 与	2,646,000	2,187,108	458,892	給与：1,553,398 嘉賞与：237,160 パート給与：396,550
	旅 費	1,790,000	1,964,808	▲174,808	理事会・懇親会：120,360 評議員会：484,033 私大連絡会：691,155 その他の役員旅費：343,530 通勤旅費：164,580 その他：161,150
	事務用品費	240,000	158,549	81,451	
	印 刷 費	1,823,000	1,690,794	132,206	会報：1,474,231 名簿追録：51,450 封筒：90,510 その他：74,603
	通信運搬費	1,293,000	1,205,989	87,011	電信電話料：119,416 別納郵便代：797,582 切手葉書代：271,850 受取人払郵便代：8,890 送金手数料：7,191 宅急便：1,060
	設備工事費	200,000	44,517	155,483	パソコン、プリンター修理費
	什品備品費	500,000	75,657	424,343	パソコン関係用品
	事 業 費	3,164,000	4,573,115	▲1,409,115	研究奨励賞関係：1,280,430 学生補助金：314,025 講師招聘援助金：40,000 図試対策費：209,385 国試激励会（2回）：1,125,000 国試慰労会：600,000 支部祝儀：210,000 慶弔費：475,970 総会費：56,855 その他：261,450
	会 議 費	1,230,000	1,153,433	76,567	理事会：188,140 会長懇親会：89,980 評議員会：339,475 学部長懇談会：74,130 私大連絡会：196,007
	公租公課	70,000	70,000	0	研究奨励賞選考委：80,498 副担任会：115,153 その他：70,050
	雜 費	1,422,000	1,910,713	▲488,713	法人市民税 税理士報酬：31,500 慶弔費：331,650 会長涉外賛：975,436 教育研究基金（仮称）に振替：200,000 その他：372,127
	預り金積立	122,000	111,616	10,384	
	引当金積立	2,000,000	2,000,000	0	
	仮 渡 金	0	600,000	▲600,000	代理店勘定資金不足のため代理店勘定仮受金へ
	予 備 費	3,432,523	0	3,432,523	
	合 計	19,932,523	17,746,299	2,186,224	
	収入差引	0	10,226,929	▲10,226,929	

平成12年度残金処分

残金額（收支差引額） 10,226,929円

◆次年度繰越 7,226,929円

◆事業積立金積立 3,000,000円

平成12年度特別会計決算

	事業積立金	生涯教育基金	刊行物積立金	合 計
前 年 度 より 繰 越	82,288,487	2,327,805	2,000,000	86,616,292
本 年 度 增 加 額	0	720,000	2,000,000	2,720,000
本 年 度 受 取 利 息	147,608	5,692	2,720	156,020
本 年 度 減 少 額	0	0	0	0
本 年 度 未 決 額	82,436,095	3,053,497	4,002,720	89,492,312

平成12年度財産目録

平成13年5月31日現在

	一般会計	特別会計	合 計	特別会計内訳		
				事業積立金	生涯教育基金	刊行物積立金
I 資産の部	10,453,252	89,492,312	99,945,564			
1 流動資産	10,226,929	89,492,312	99,719,241			
①現預金	10,226,929	89,492,312	99,719,241	82,436,095	3,053,497	4,002,720
振替口座	83,630	0	83,630			
郵便通常貯金	5,254,188	0	5,254,188			
郵便定期貯金	0	3,590,482	3,590,482	3,590,482		
普通預金〔福銀〕	4,889,111	20,000	4,909,111		20,000	
定期預金	0	85,881,830	85,881,830	78,845,613	3,033,497	4,002,720
福岡銀行	0	69,099,125	69,099,125	62,062,908	3,033,497	4,002,720
福岡シティ銀行	0	16,782,705	16,782,705	16,782,705		
現金	0	0	0			
②有価証券	0	0	0			
2 固定資産	226,323	0	226,323			
①有形固定資産	78,539	0	78,539			
②無形固定資産	147,784	0	147,784			
II 負債の部	0	0	0			
III 正味財産 (I + II)	10,453,252	89,492,312	99,945,564			
IV 前年度未財産	4,144,635	86,616,292	90,760,927			
V 増加額 (III - IV)	6,308,617	2,876,020	9,184,635			

平成13年度事業計画

項目	摘要	必要経費 (A)	科目内訳				平成12年度 (B)	比較 (A-B)	備考
			事業費	印刷費	通信運搬費	会議費			
会報の発行	印刷代：春220×4,200部=924,000 秋250×3,600部=900,000 封筒代： 15×7,800枚=117,000 郵送料：春180×3,000通=540,000 秋180×2,400通=432,000	2,913,000		1,824,000 117,000	972,000		2,404,000	509,000	
会員名簿の発行 (3年毎)	印刷代：1,200×3,500部=4,200,000 封筒代： 20×3,500枚= 70,000 郵送代： 340×2,700通= 918,000	5,188,000		4,270,000	918,000		0	5,188,000	刊行物積立金繰入 3,000,000 広告料収入 2,000,000
総会の開催	総会準備会費	200,000	200,000				200,000	0	
研究奨励賞	5件以内	1,500,000	1,500,000				900,000	600,000	
卒後教育	講師招待費 50,000×12支部	600,000	600,000				600,000	0	
学生対策	新入生歓迎会：1,000,000 M4激励会： 800,000 国試激励会： 800,000 国試慰労会： 800,000	3,400,000	3,400,000				364,000	3,036,000	
国試対策費	国試対策費：200,000 副担任会議：250,000	450,000	200,000				250,000	350,000	100,000
支部祝儀贈与	支部発足：50,000×2=100,000 支部会参加：30,000×10=300,000	400,000	400,000				400,000	0	
行事参加	学生行事への参加（謝恩会）	50,000	50,000				140,000	▲90,000	
慶弔贈与	祝儀、弔慰金、見舞金：20,000×3=60,000	60,000	60,000				60,000	0	
合 計		14,761,000	6,410,000	6,211,000	1,890,000	250,000	5,418,000	9,343,000	

積立金より支出

奨学金緊急貸付	緊急時における奨学金の貸付（必要に応じ）	2,000,000
---------	----------------------	-----------

平成13年度収入支出予算

区分	科 目	13 予 算	13 摘 要	12 予 算	12年度決算 予算比較
収入	繰 越 金	7,226,929		3,881,523	3,345,406
	会 費 収 入	16,152,000	入会費: 49,880 × 95 ÷ 4,738,000 学年会費: 9,930 × 500人 × 0.8 ÷ 3,972,000 年会費: 9,930 × 1,499人 × 0.5 ÷ 7,442,000	13,781,000	2,371,000
	協賛金収入	0		786,000	▲786,000
	手数料収入	1,030,000	紹介手数料: 三井30,000 集金手数料: 三井1,000,000	1,350,000	▲320,000
	雑 収 入	2,012,000	1,000 × 12月 名簿広告料: 2,000,000	12,000	2,000,000
	預り金収入	122,000	給与源泉徴収税: 8,200 × 12月 + 12,000 × 2回	122,000	0
	積立金繰入	3,000,000	刊行物積立金より会員名簿経費として	0	3,000,000
	仮 受 金	0		0	0
	合 計	29,542,929		19,932,523	9,610,406
支出	給 与	3,460,000	給与: 120,000 × 18月 = 2,160,000 賞与: 120,000 × 3回 = 360,000 パート: 70,000 × 12月 = 840,000 アルバイト: 100,000	2,646,000	814,000
	旅 費	1,748,000	理事会・懇話会: 10,000 × 12回 = 120,000 評議員会: 480,000 私大連結会: 80,000 × 2人 × 3回 = 480,000 その他の役員旅費: 400,000 通勤旅費: 14,000 × 12月 = 168,000 その他: 100,000	1,790,000	▲42,000
	事務用品費	240,000	20,000 × 12月 = 240,000	240,000	0
	印 刷 費	6,404,000	会報: 春220 × 4,200部 + 秋250 × 3,600部 = 1,824,000 名簿: 1,200 × 3,500部 = 4,200,000 封筒: 大15 × 14,000枚 + 中小10 × 5,000枚 = 260,000 その他: 10,000 × 12月 = 120,000	1,823,000	4,581,000
	通信運搬費	2,603,000	電信電話: 10,000 × 12月 = 120,000 会報: 180 × 5,400通 = 972,000 名簿340 × 2,700通 = 918,000 切手葉書代: 200,000 名簿調査: 160 × 2,200人 = 352,000 受取人払: 70 × 300通 = 21,000 その他: 20,000	1,293,000	1,310,000
	設備工事費	200,000	事務局移転に伴うもの	200,000	0
	什品備品費	500,000	事務局移転に伴う設備拡充	500,000	0
	事 業 費	6,410,000	総会費: 200,000 研究奨励賞: 1,500,000 卒後教育: 50,000 × 12 = 600,000 新入生歓迎会: 1,000,000 M4激励会: 800,000 国試激励会: 800,000 国試慰労会: 800,000 国試対策費: 200,000 支部祝儀: 50,000 × 2 + 30,000 × 10 = 400,000 謝恩会祝儀: 50,000 麗弔贈与費: 20,000 × 3 = 60,000	3,164,000	3,246,000
	会 議 費	1,230,000	理事会: 200,000 評議員会 1回: 500,000 副担任会: 250,000 会長懇話会: 100,000 奨励賞選考委員会: 80,000 その他: 100,000	1,230,000	0
	公租公課	70,000	法人県市民税: 70,000	70,000	0
	雑 費	2,032,000	税理士報酬: 32,000 慶弔費: 400,000 7私大会費: 200,000 会長涉外費: 1,000,000 その他: 400,000	1,422,000	610,000
	預り金積立	122,000	給与源泉徴収税	122,000	0
	引当金積立	2,000,000	会員名簿、パンフレット作成引当(刊行物積立金)	2,000,000	0
	仮 渡 金	0		0	0
	予 備 費	2,523,929		3,432,523	▲908,594
	合 計	29,542,929		19,932,523	9,610,406
	収入差引	0		0	0

教育職員人事(併任講師以上)

(○内の数字は福大医学部卒業回)

[平成13.4.2~13.10.1]

区 分	所 属	資 格	氏 名	発 令 日	摘 要
退 職	筑紫病院麻酔科	併任講師	水 城 透 ③	13. 7. 31	白十字病院へ
	外 科 第 二	講 師	岡 林 寛	13. 9. 30	国立福岡東病院へ
	産 婦 人 科	併任講師	江 口 冬 樹 ⑥	13. 9. 30	麻生飯塚病院へ
昇 格	内 科 学 第 二	助 教 授	松 永 彰 ③	13. 10. 1	
	耳 鼻 咽 喉 科 学	助 教 授	原 田 博 文	13. 10. 1	
	心 臓 血 管 外 科	講 師	森 重 徳 繼 ⑥	13. 10. 1	

医局長・医長名簿

(○内の数字は卒業回、筑紫病院の*印は内科・消化器科の代表)

平成13年10月1日現在

所 属	医 局 長	病 棟 医 長	外 来 医 長
[福 大 病 院]			
血液・糖尿病科	一瀬 一郎	市川 晃治郎	鈴宮 淳司
循環器科	松永 彰③	松尾 邦浩⑧	辻 恵美子
消化器科	渡邊 洋④	岩田 郁⑯	辻 博
腎臓内科	兼岡 秀俊	野田 律矢	武田 誠司⑪
呼吸器科	渡辺 憲太朗	白石 素公⑪	石橋 正義
神経内科・健康管理科	松永 洋一⑤	楠原 智彦(6北)	藤野 泰祐⑭(神経)
"		齋藤 信博⑯(7階)	宗清 正紀
精神神経科	福井 敏	高尾 岳久⑫	鈴木 智美⑩
"(ディケア)			入沢 誠⑭
小児科	小川 厚⑥	安元 佐和⑦	松本 一郎⑩
外科第一	田中 伸之介⑤	中村 浩⑪	永井 哲⑫
外科第二	岩崎 昭憲⑤	前川 隆文②	米田 敏⑨
整形外科	生野 英祐⑦	張敬範⑫	緑川 孝二⑥
形成外科	棚橋 慎治⑫	棚橋 慎治⑫	江良 幸三⑨
脳神経外科	平川 勝之⑨	大野 哲二⑭	継仁 ⑧
心臓血管外科	立川 裕⑬	芝野 竜一⑭	岩橋 英彦⑯
皮膚科	久保田 由美子	清水 昭彦	高橋 聰⑯
泌尿器科	田原 春夫⑤	田丸 俊三⑨	中島 雄一⑫
産婦人科	井上 善仁	牧野 康男⑧(3東)	澄井 敬成
"		窪田 孝明(3北)	
眼科	松井 孝明⑪	尾崎 弘明	近藤 寛之
耳鼻咽喉科	原田 博文	毛利 肇⑯	今村 明秀⑪
放射線科	秋田 雄三	中島 力哉⑭	木村 史郎⑬
麻酔科	櫻木 忠和③	平田 和彦⑫	平田 和彦⑫
歯科口腔外科	豊福 明	喜久田 利弘	豊福 明
病理部	大慈弥 悠子		
臨床検査部	野元 淳子⑨		
輸血部	熊川 みどり		
救命救急センター	谷川 攻一	益崎 隆雄⑪	
[筑 紫 病 院]			
筑紫病院(代表)	新居見 和彦⑤		
内科第一	三好 恵⑯	三原 宏之⑨	諸江 一男③
内科第二	二宮 寛②	有富 貴道	有富 貴道
消化器科・内視鏡部	八尾 建史*	戸原 恵二⑧*	津田 純郎⑥*
小児科	新居見 和彦⑤	新居見 和彦⑤	津留 徳
外科	河原 一雅⑫	城下 豊生⑬	東大二郎⑮
整形外科	有永 誠⑧	有永 誠⑧	伊崎 輝昌
脳神経外科	風川 清	上野 恒司⑫	堤正則
泌尿器科	石井 龍⑤	平浩志⑯	石井 龍⑤
眼科	武末 佳子⑪	藤原 恵理子	武末 佳子⑪
耳鼻咽喉科	宮城 司道⑨	宮城 司道⑨	宮城 司道⑨
放射線科	小野 広幸⑦		
麻酔科	堀 浩一郎⑬		
病理部	原岡 誠司		

外来担当医表の掲載中止

従来、毎号福岡大学病院と筑紫病院の外来担当医表を掲載していましたが、今回から中止しました。必要な場合は福岡大学病院のインターネットホームページをご覧下さい。

アドレスは <http://www.med.fukuoka-u.ac.jp/hosp/> です。

平成14年度
福岡大学医学部同窓会
研究奨励賞募集要項

対 象：正会員及び準会員で、40才未満の者または学部卒業後10年未満の者
(本会会費完納を条件とする)

研究課題：医学に関するものであれば自由(医学に関する研究計画又は研究論文)

申請方法：所定の申請書による(支部長推薦を要す)

提 出 先：〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1
福岡大学医学部同窓会事務局
Tel 092-865-6353 (直通) 内線3032 Fax 092-865-9484

締 切：平成14年4月30日

賞状・賞金：奨励賞(優秀論文賞を含む)5件程度

発表及び表彰：平成14年7月、第21回同窓会総会席上

その他

- ①受賞者は研究報告書を提出する事(研究は2年以内に終了)
- ②受賞者は研究成果を総会で口演するか同窓会会報に発表する事
- ③申請書は同窓会事務局に請求の事
- ④申請書はワープロで記載し、過去の研究業績(原著、著書、症例報告、学会発表)、研究の独創性・重要性を十分に書く事

編 集 後 記

不本意ながら、やはり今話題になるのは米同時テロ事件でしょう。さらに続く、報復攻撃、炭疽菌事件など、世界各地で果てることのない争いの根源の一つに宗教の問題があります。キャンパス便りで原田君が疑問を投げかけていますが、逆に確固たる宗教を持たない我々日本人は、その特性(融通性またはいいかげんさ)をうまく生かして、これら紛争を取り持つ架け橋になり得るのではないか?

一方、我々はあるいは「福大医学部教」にどっぷり漬かっているのかもしれません。学徒のうちにその教理を刷り込んでおいて日本制覇を企んでいるのかも(?)。その成果の一端を本会報の中のそこここに見つけてください。

頃はクリスマスへと向かう季節。日本全国民が一日限りのクリスマスになる日。そして結局、我が烏帽子会会員は皆、人に優しい世界平和を願いつつ動いているんだと、安心してしまう、あるいは安心したがっている私。それも良いかもしれないと思う今日この頃です。皆様はいかが?

(文責 武末)

編集委員：◎井上隆則(7回生)、松田年浩(5回生)、武末佳子(11回生)、立川裕(13回生)

◎印は委員長

鳥帽子会会報第31号

発行日 平成13年11月15日

発行人 高木忠博

編集人 井上隆則

発行所 〒814-0180

福岡市城南区七隈7-45-1

福岡大学医学部同窓会

電話.092-865-6353 (直通)

092-801-1011 (代表)

内線 3032

FAX.092-865-9484

E-mail:eboshi@minf.med.fukuoka-u.ac.jp

印刷所 ロータリー印刷(株)